

市内遺跡調査報告書

～平成7～27年度の試掘調査・立会調査報告～

2016年

大府市教育委員会

序

大府市は、昭和40年代以降、J R東海道線・武豊線や国道23号線沿線・知多半島道路という交通の利便性から土地区画整理事業が市内各所で行われるようになり、また民間開発事業も盛んに行われ、名古屋市近郊のベットタウンとして発展してまいりました。現在も伊勢湾岸自動車道、名二環等の道路整備も行われ、土地開発は増加傾向にあります。

この開発に伴い、数多くの埋蔵文化財が包蔵地調査の実施に繋がりました。その調査結果により、旧石器時代の2万年以上前から人々の生活が営まれていたことが、平安時代終わりから鎌倉時代にかけて市内各所に陶器を焼く窯が築かれていたことがわかりました。これらは貴重な人類の遺産で後世に伝えていくことは、現在を生きている我々にとって崇高な使命であります。

近年、市内における発掘調査の増加に伴って「文化財調査報告書」は第13集まで刊行されました。その間に並行するように試掘調査、立会調査が実施され、調査成果が蓄積されてきました。その一部は、平成3年に刊行された「大府市誌 資料編 考古」に収録し、その後の調査成果を本来ならば第13集の前の発刊とすべきでしたが、調査資料の整理・判別に時間を多く費やすこととなりました。

この度調査成果をここにまとめ、平成7年から平成27年にかけて実施された試掘調査・立会調査のうち、調査成果があった遺跡を集めて「市内遺跡調査報告書」として刊行します。

最後に、報告書の刊行に至るまで、愛知県教育委員会文化財保護室並びに知多管区教育委員会をはじめ、土地所有者の方々など、多大なご協力とご理解をいただきました関係者の皆様に対して心から厚くお礼申し上げます。

平成29年3月

大府市教育委員会
教育長 宮島 年夫

例　言

1. 本書は、愛知県大府市内で平成 7 年から平成 27 年にかけて実施した、試掘調査・立会調査で成果のあった遺跡の調査報告書である。
2. 試掘調査・立会調査は、開発に伴う埋蔵文化財事前調査として、大府市教育委員会が実施した。
3. 本書は、埋蔵文化財専門員の田中が執筆、編集した。
4. 調査及び報告書作成にあたっては、次の方々のご指導、ご協力を得た。
中野晴久（愛知学院大学）、青木 修（公益財団法人 濑戸市文化振興財団埋蔵文化財センター）、鈴木智恵（平成 11 年～ 14 年文化財研究員・平成 15 年～ 26 年資料館指導員）
伊藤羊子（平成 11 年～ 22 年文化財研究員・平成 23 年～ 26 年資料館指導員）
5. 調査及び本書に関わる記録、出土遺物は大府市歴史民俗資料館（大府市桃山町五丁目 180 番地 1）が保管している。

凡　例

1. 図の縮尺は各タイトルにスケールを表示している。
2. 遺物番号は本文記載の遺構順に通し番号とし、実測図・写真図版ともに一致している。
遺物実測図の縮尺は、1/3 とした。
3. 遺物の編年・観察を、灰釉陶器は城ヶ谷和弘 [2015 年]、山茶碗が藤澤良祐 [1994 年]、中世土師器系が鈴木正貴 [2005 年] に拠った



図1 大府市の位置図

目 次

第Ⅰ章 位置と環境

第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	3

第Ⅱ章 調査に至る経緯と経過

第1節 各遺跡の調査地について	7
第2節 調査方法と経過	12

第Ⅲ章 調査の成果

第1節 平成7年度	
立根B古窯群	13
立根C古窯群	16
第2節 平成9年度	
終山A古窯群	18
第3節 平成10年度	
箕手B古窯	22
第4節 平成14・15年度	
高根山C古窯群	24
第5節 平成17年度	
脇ノ烟A古窯	34
第6節 平成21年度	
律粉東古窯	36
第7節 平成23年度	
石丸遺跡	41
第8節 平成25年度	
石丸遺跡	43

引用参考文献一覧

報告書抄録

図目次

図 1	大府市の位置図	
図 2	大府市の表層地質図 (S=1 : 50000)	2
図 3	大府市の遺跡分布図 (S=1 : 50000)	4
図 4	立根 B 古窯群位置図 (S=1 : 5000)	13
図 5	立根 B 古窯群出土遺物実測図 (S=1 : 3)	14
図 6	立根 C 古窯群位置図 (S=1 : 5000)	16
図 7	立根 C 古窯群出土遺物実測図 (S=1 : 3)	17
図 8	柊山 A 古窯位置図 (S=1 : 5000)	18
図 9	柊山 A 古窯出土遺物実測図 (S=1 : 3)	19
図 10	箕手 B 古窯位置図 (S=1 : 5000)	22
図 11	箕手 B 古窯出土遺物実測図 (S=1 : 3)	23
図 12	高根山 C 古窯群位置図 (S=1 : 5000)	24
図 13	高根山 C 古窯群出土遺物実測図 1 (S=1 : 3)	25
図 14	高根山 C 古窯群出土遺物実測図 2 (S=1 : 3)	26
図 15	高根山 C 古窯群出土遺物実測図 3 (S=1 : 3)	27
図 16	高根山 C 古窯群出土遺物実測図 4 (S=1 : 3)	28
図 17	高根山 C 古窯群出土遺物実測図 5 (S=1 : 3)	29
図 18	大府市内の灰釉陶器窯分布図 (S=1 : 70000)	33
図 19	脇ノ畑 A 古窯位置図 (S=1 : 5000)	34
図 20	脇ノ畑 A 古窯出土遺物実測図 (S=1 : 3)	35
図 21	律粉東古窯位置図 (S=1 : 5000)	36
図 22	律粉東古窯出土遺物実測図 1 (S=1 : 3)	37
図 23	律粉東古窯出土遺物実測図 2 (S=1 : 3)	38
図 24	石丸遺跡位置図 1 (S=1 : 5000)	41
図 25	石丸遺跡出土遺物実測図 1 (S=1 : 3)	42
図 26	石丸遺跡位置図 2 (S=1 : 5000)	43
図 27	石丸遺跡出土遺物実測図 2 (S=1 : 3)	44

表目次

表 1	大府市内の遺構一覧	5
表 2	大府市土地区画整理事業	7
表 3	市内試掘・確認調査・工事立会調査一覧表 1	7
表 4	市内試掘・確認調査・工事立会調査一覧表 2	8
表 5	市内試掘・確認調査・工事立会調査一覧表 3	9
表 6	市内試掘・確認調査・工事立会調査一覧表 4	10
表 7	市内試掘・確認調査・工事立会調査一覧表 5	11
表 8	市内試掘・確認調査・工事立会調査一覧表 6	12
表 9	立根 B 古窯群遺物観察表	14
表 10	立根 C 古窯群遺物観察表	17
表 11	柊山 A 古窯遺物観察表 1	19
表 12	柊山 A 古窯遺物観察表 2	20
表 13	箕手 B 古窯遺物観察表	23
表 14	高根山 C 古窯群遺物観察表 1	27
表 15	高根山 C 古窯群遺物観察表 2	29
表 16	高根山 C 古窯群遺物観察表 3	30
表 17	脇ノ烟 A 古窯遺物観察表	35
表 18	律粉東古窯遺物観察表	38
表 19	石丸遺跡遺物観察表 1	42
表 20	石丸遺跡遺物観察表 2	44

写真目次

写真 1	調査地遠景	13
写真 2	トレンチ掘削状況	13
写真 3	立根 B 古窯群遺物写真	15
写真 4	調査地遠景	16
写真 5	トレンチ掘削状況	16
写真 6	立根 C 古窯群遺物写真	17
写真 7	調査地遠景	18
写真 8	遺構検出状況	18
写真 9	柊山 A 古窯遺物写真 1	20
写真 10	柊山 A 古窯遺物写真 2	21
写真 11	調査地遠景	22
写真 12	トレンチ掘削状況	22
写真 13	箕手 B 古窯遺物写真	23
写真 14	調査地遠景	25
写真 15	トレンチ全景	25
写真 16	トレンチ断面灰原堆積状況	25
写真 17	トレンチ遺物出土状況	25
写真 18	高根山 C 古窯群遺物写真 1	30
写真 19	高根山 C 古窯群遺物写真 2	31
写真 20	高根山 C 古窯群遺物写真 3	32
写真 21	調査地全景	34
写真 22	トレンチ断面堆積状況	34
写真 23	脇ノ畑 A 古窯遺物写真	35
写真 24	調査地全景	36
写真 25	トレンチ断面堆積状況	36
写真 26	律粉東古窯遺物写真 1	39
写真 27	律粉東古窯遺物写真 2	40
写真 28	調査地全景	41
写真 29	土坑検出状況	41
写真 30	石丸遺跡遺物写真 1	42
写真 31	調査地全景	43
写真 32	土坑羽釜検出状況	43
写真 33	石丸遺跡遺物写真 2	44

第Ⅰ章 位置と環境

第1節 地理的環境

大府市は、知多半島の基部に位置しており、面積は33. 68 km²である。市域は丘陵地が主だが、北部の尾張丘陵と南部の大府丘陵に分かれる。この丘陵地を分ける大高川—鞍流瀬川の谷地形の低地は、水主ヶ池（名古屋市緑区）を分水界とし、ここから東西相反する方向で河川が流れている。

市域の最高地点は、吉田町南西端の三角点の丘陵にあり、標高74. 3mである。しかし大部分の丘陵地は標高50mを超すものが少ない。丘陵地の東西でも形成の仕方が異なり、東部では高さ40～50mでやや急な斜面が認められる。西部では高さ70mを超えるものもあるが、概ね40mで緩やかな斜面のものが多い。東部は、礫が多く、透水性が高くなり地表の浸食に強いが、西部はシルトや砂が多いため浸食されやすい。一方で大府市の東の境は標高10～20mの河岸段丘と境川・逢妻川と支流が作り上げた低地が見られる。低地の大半は標高数m以下の海岸平野面であるが一部に自然堤防が確認される。

愛知県の地質は、新生代古代三紀までと、新第三紀中新世以降とに大別される。古い方は固い岩石でできており、まとめて基盤岩と呼ばれる。基盤岩類には、秩父帶・美濃帶と呼ばれる中・古生層、領家帶の花崗岩・変成岩類、三波川帶の変成岩類、圧碎岩類などがあり、新しい方は固結したものもあるが、多くは未固結の地層でできており、まとめて新第三系と呼ばれる。

大府市には、尾張丘陵と大府丘陵が含まれる。市内に見られる地層は、全て新生代第三紀鮮新世以降のものであり、大府丘陵においては新第三紀（Neogene）後期中新世～鮮新世（Late Miocene to Pliocene）東海層群（Tokai Group）常滑累層（Tokoname Formation）上部（Upper part）火山灰層（Volcanic ash layer）砂・シルト・粘土及び砂礫（火山灰層・亜炭を挟む）（Sand, clay and pebbly sand intercalating volcanic ash layers and lignite）、大府丘陵北東の一部と尾張丘陵においては新第三紀（Neogene）鮮新世（Pliocene）矢田川累層（Yadagawa Formation）砂及び礫層（Sand and gravel）を主としているため、東部の丘陵は透水性の高い礫が多く、西部の丘陵は透水性の低い砂やシルトがあるため、流れやすいためと考えられる。しかしながら、全体的には尾張丘陵及び大府丘陵、知多丘陵は、砂・シルト・粘土層から構成されているなど、地質や地形が酷似しており、開析が進みやすく、いくつもの舌状の小丘陵が発達しているなどの共通点も見られる。丘陵部に広がる常滑層群を構成する主な鉱物は、チャート・ホルンフェルス・長石・石英・雲母などである。長石は風化して粘土になりやすい。シルト層や粘土層は、基本的には灰色をしているが、水分を含む量によりその濃さが変わる。また、砂層に伴うものは濃い灰色のものが多く、礫層に伴うものは桃色になるものが多い。常滑市周辺で見られる地層は、亜炭を挟むことが多いが、大府市内では比較的少ない。

河川流域の地形は、大府市では丘陵の上にわずかに残る高位段丘面を別にすれば、境川右岸や石ヶ瀬川の河岸段丘が見られる。これは、第四紀 (Quaternary) 更新世 (Pleistocene) 後期 (Late) に形成された低位段丘層 (Lower terrace deposits) や中位段丘層 (Middle terrace deposits) で、



図2 大府市の表層地質図

地質調査総合センター発行 5万分の1地質図「名古屋南部」(1986)「半田」(1986)より引用・改編

標高 10 ~ 20 m の各段丘面は比較的小規模で点在している。この地層は、名古屋市の熱田台地を形成している熱田層や知多半島の半田層・野間層などと同時期のものである。低地は、第四紀 (Quaternary) 完新世 (Holocene) の潮汐低地 (Tidal flat) ・後背湿地 (back swamp) ・河道堆積物 (channel deposits) や谷底平野堆積物 (Valley plain deposits) からなり、開析された丘陵深部まで入り込み、平坦面を形成している。

第2節 歴史的環境

大府市域では、現在までに 180 箇所の遺跡を確認している。

旧石器から縄文時代の遺跡は、共栄町の共栄遺跡と朝日町の桟敷貝塚がある。共栄遺跡ではナイフ形石器や角錐状石器・石鏃などが採集され、桟敷貝塚では縄文晚期後葉の条痕文土器が見つかっている。

弥生時代の遺跡は、共和町木之山の子安神社遺跡、東部の沖積低地に位置する横根町の惣作遺跡がある。子安神社遺跡は、市史編さん事業の一環として 1982 年と 1984 年の二次にわたる発掘調査が実施され、弥生時代後期山中式期から終末期廻間 I 式期の溝を中心とする遺構や遺物を確認し、このうち溝については環濠の可能性が指摘される。惣作遺跡は、1972 年の発掘調査により、弥生時代前期水神平式条痕深鉢や中期末高藏式期の壺が出土した他、古代の製塩土器を多数確認した。この両遺跡については、中世までの複合遺跡として認識される。

古代以降、愛知県は窯業地帯としての性格を帯び始め、尾張東部から三河西部に展開する猿投山西南麓古窯址群（以下、猿投窯）は、古代における日本有数の窯業地となる。広大な領域に及ぶ猿投窯は、幾つかの区分により理解されており、その南端に位置するのが鳴海地区有松支群である。12 世紀頃に最も生産が活発になるこの鳴海地区有松支群とともに、12 世紀初頭には知多半島において常滑古窯址群（以下、常滑窯）が成立する。

大府市は、名古屋市東部の尾張丘陵、知多半島中央の知多丘陵の両丘陵地帯に連なる位置にあり、猿投窯と常滑窯、二つの古窯址群が接する地域でもある。連続する丘陵部に築かれた古窯の分布状況により、両古窯址群の境界は不鮮明なものとなっているが、現段階では境川とその水系である鞍流瀬川、県道 248 号名和大府線に沿って流れる支流石根川、大田川の支流中川および渡内川を両古窯址群の境界とする案が示されている。（尾野善裕 1994 「NN330 号窯発掘調査報告書」名古屋市教育委員会）

市域で確認した最古の窯跡は、平安時代中期の野々宮古窯（1972 年市教委）であり、鳥羽離宮安楽寿院の瓦を生産したと考えられる吉田第 1 ・第 2 号窯（1968 年市教委）、広口長頸瓶を主要器種として焼成した神明古窯群（1994 年市教委）、ヘラ描文を持つ壺が出土した森岡第 1 号窯群（1996 年県埋文）など、石ヶ瀬川水系の丘陵部に比較的古い様相を示す窯跡が集中する。

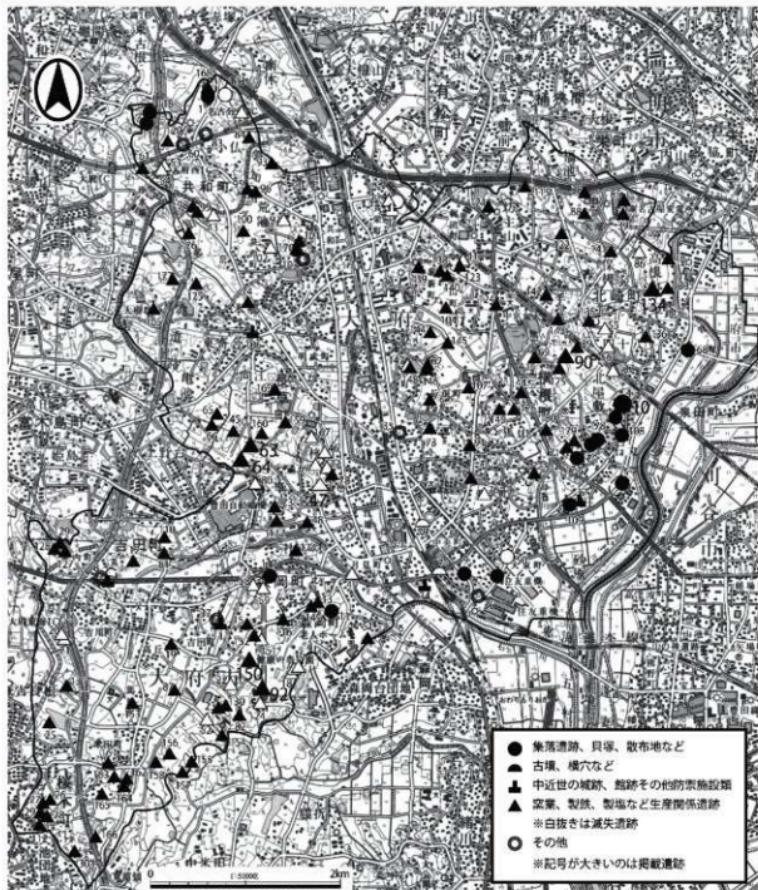


図3 大府市の遺跡分布図

国土地理院発行 5万分の1地形図「名古屋南部」(H.13)、「半田」(H.19)、「豊田」(H.11)

表1 大府市内の遺跡一覧

遺跡番号	遺跡名称	時代	遺跡番号	遺跡名称	時代	遺跡番号	遺跡名称	時代
1	宇安神社遺跡	弥生～中世	61	上入道古窯	中世	121	坊主山A古窯群	中世
2	共栄遺跡	旧石器・縄文	62	長根山A古窯群	中世	122	井田B古窯	中世
3	東光寺経塚	江戸	63	立根B古窯群	中世	123	桜井D古窯群	中世
4	寶聖院貝塚	中世	64	立根C古窯群	中世	124	石龜D古窯群	中世
5	碧作遺跡	弥生～arkan	65	立根D古窯群	中世	125	眞手C古窯群	中世
6	楳敷貝塚	縄文晚期	66	立根E古窯	中世	126	吉井A古窯	中世
7	高山古墳	古墳後期	67	深堀間B古窯群	中世	127	長峰北E古窯	中世
8	正官墳	中世	68	西浜田遺跡	不明	128	長峰北B古窯	中世
9	南島貝塚	不明	69	二ッ池東古窯	中世	129	長峰北C古窯	中世
10	石丸遺跡	中世	70	藤井宮御酒瓶子出土	中世	130	籠染西古窯	古代
11	源吾遺跡	古墳	71	平子古窯	中世	131	井戸端古窯群	中世
12	野々宮古窯	古代	72	鶴池北古窯群	中世	132	西定期A古窯群	中世
13	森岡第1号古窯	中世	73	鶴池東古窯	中世	133	高根山B古窯群	古代～中世
14	森岡第2号古窯	中世	74	下北山古窯群	中世	134	高根山C古窯群	古代～中世
15	北向古窯	中世	75	川池西古窯	不明	135	山手C古窯群	中世
16	旧中部病院第1号古窯	中世	76	石龜古窯	不明	136	上り坂A古窯	中世
17	旧中部病院第2号古窯	不明	77	桃山B古窯	不明	137	山之神北古窯	中世
18	旧中部病院第3号古窯	不明	78	桃山C古窯	中世	138	八代山A古窯	中世
19	ハンヤ古窯	中世	79	雨蓋池西古墳	古墳	139	八代山B古窯	中世
20	吉田1号古窯	中世	80	山口古窯群	不明	140	八代山C古窯	中世
21	吉田2号古窯	中世	81	大高山古窯	不明	141	西定期B古窯群	古代～中世
22	律博士古窯	中世	82	籠染第3号古窯	中世	142	眞手D古窯群	中世
23	籠染第1号古窯	中世	83	円通寺経塚	江戸中期	143	眞手E古窯群	中世
24	籠染第2号古窯	不明	84	大廻間古窯	中世	144	上巣山A古窯	中世
25	大日古窯	不明	85	みどり公園古窯	中世	145	上巣山B古窯	中世
26	外輪第1号古窯	不明	86	高根山西古窯	中世	146	立合池東古窯群	中世
27	外輪第2号古窯	不明	87	口無池西古窯	中世	147	立合池西A古窯群	中世
28	外輪第3号古窯	不明	88	北崎大池古窯	古代～中世	148	立合池西B古窯群	中世
29	外輪第4号古窯	不明	89	眞手A古窯	中世	149	古井B古窯	中世
30	骨田末古窯	中世	90	眞手B古窯	中世	150	福／福A古窯	中世
31	西川城跡	中世	91	ガンジ山A古窯群	中世	151	福／福B古窯	中世
32	横根城跡	中世	92	律粉東古窯	中世	152	福／福C古窯	中世
33	追分城跡	中世	93	上徳古窯群	中世	153	馬池西古窯	中世
34	石ヶ瀬古戦場跡	中世	94	丸堀城跡	不明	154	東堀山古窯	中世
35	大清水井戸跡	中世	95	大深田古窯	中世	155	毛分田A古窯	中世
36	おしも井戸跡	不明	96	荒池古窯群	中世	156	毛分田B古窯	中世
37	芦沢井戸跡	中世	97	砂原古窯	中世	157	家下古窯	中世
38	福泡古窯	中世	98	木根A古窯群	中世	158	上家A古窯	中世
39	大根古窯	中世	99	木根B古窯群	中世	159	車池A古窯	中世
40	高根山古窯群	中世	100	久分古窯群	中世	160	車池B古窯	中世
41	桃田古窯	中世	101	瀬戸B古窯群	中世	161	森東古窯	中世
42	別相古窯群	中世	102	奥谷古窯	中世	162	前田A古窯	中世
43	權兵衛池古窯	中世	103	瀬戸A古窯	中世	163	前田B古窯	中世
44	名高山古窯群	中世	104	北山古窯	中世	164	前田C古窯	中世
45	立根A古窯群	中世	105	石原古窯群	中世	165	森前古窯	中世
46	深間A古窯群	中世	106	草岸城跡	不明	166	骨田E南古窯	中世
47	桃山A古窯群	中世	107	長根山B古窯	中世	167	深間C古窯群	中世
48	石ヶ瀬古窯	中世	108	普門寺遺跡	中世	168	子安古窯	古代～中世
49	江端古窯	中世	109	寺田遺跡	中世	169	上田A松古窯	中世
50	延命寺貝塚	不明	110	大高山西古窯群	中世	170	瀬戸C古窯群	中世
51	剝木A古窯群	中世	111	黒瀬屋敷跡	不明	171	中村遺跡	古代～中世
52	東端古窯	中世	112	外輪南古窯	中世	172	ウドA古窯	古代
53	才田A古窯	中世	113	炭焼遺跡	弥生～中世	173	ウドB古窯	古代
54	才田B古窯	中世	114	上り戸古窯	中世	174	森岡平子古窯	中世
55	山手A古窯	不明	115	井戸古窯群	中世	175	菅山古窯	中世
56	山手B古窯	不明	116	池之分古窯	不明	176	木根C古窯	中世
57	羽根山古窯群	中世	117	山中遺跡	古代～中世	177	西忍冬古窯	中世
58	神明古窯群	中世	118	兒子廻間A遺跡	古代～中世	178	名高遺跡	古代～中世
59	海陸庵古窯群	中世	119	兒子廻間B遺跡	古代～中世	179	平子古窯	中世
60	円通寺古窯	近世	120	下入道古窯	中世	180	牛池庚古窯	中世

12世紀末から13世紀にかけて、いわゆる山茶碗窯が市域丘陵部全域に造営され、少なくとも140箇所でその存在を確認している。このうち発掘調査が行われたのは、大府丘陵に立地する吉田第1・第2号窯を始め、ハンヤ古窯（1978年市教委）、海陸庵古窯群（1994年市教委）、深廻間A古窯群（1997年市教委）、深廻間B古窯群（1999年市教委）、深廻間C古窯群（2003年市教委）、砂原古窯（2003年市教委）、瀬戸B古窯群（2003年市教委）、奥谷古窯（2003年市教委）、瀬戸C古窯群（2005年市教委）、久分古窯群（2005年市教委）、別組古窯群（2011年県埋文）の13遺跡、尾張丘陵ではガンジ山A古窯群（1997年市教委）、羽根山古窯群（1998年市教委）、立合池西A・B古窯群（2007～2008年市教委）の4遺跡、計17遺跡がある。

山茶碗・小碗・小皿を主要器種とするが、海陸庵古窯群・深廻間A古窯群・深廻間B古窯群・深廻間C古窯群では片口鉢が、神明古窯群・森岡第1号窯群・瀬戸B古窯群・羽根山古窯群では片口鉢の他に壺類が出土した。瀬戸B古窯群からは陶硯も出土している。また、深廻間A古窯群・深廻間B古窯群・ガンジ山A古窯群では片口を持つ山茶碗の出土が確認されている。

市域は、瀬戸窯や常滑窯とは異なり、窯業は継承されず、平安時代末期から鎌倉時代末期の約200年間にその生産活動が集中する傾向が見える。一般的に室町・戦国時代になると山茶碗窯は廃絶し、丘陵部一帯は遺跡の希薄な場所となるが、著名な桶狭間合戦の織田今川勢力が均衡する地域に含まれ、近隣には『信長公記』などに登場する大高城・鷺津砦・丸根砦が所在している。（1913年国指定史跡に指定）

近世になると、伊勢湾岸道路建設に伴い円通寺古墓と円通寺経塚が調査される。前者は円通寺に関連する近世墓地である。後者は享保5年（1720年）年銘の経碑に近い場所から『大般若経』の經典に見立てた墨書の礎石が多数出土している。さらに共和町に所在する東光寺でも東光寺経塚が確認され、墨書の礎石が約4万点出土している。また知多半島全域では谷部に築堤した溜池が多数造成されており、大府市域でも見られる。これらの造成時期は判然とはしないが、近代以前の特徴的な景観となっている。こうした溜池も近年は愛知用水による水の供給安定化や、埋立てによる宅地化から、その数を減らしつつある。

第Ⅱ章 調査に至る経緯と経過

第1節 各遺跡の調査地について

大府市は、市域中央を走るJR東海道線・武豊線や国道23号線沿線という交通の利便性から名古屋市近郊のベットタウンとして発展し、昭和40年代より市内各所で土地区画整理事業が行われるようになった。埋蔵文化財の発掘調査を伴う土地区画整理事業は以下の通りである。

表2 大府市土地区画整理事業内発掘調査一覧表

施行年度	事業名	場所	発掘調査
平成5～15年度	半月特定土地区画整理事業	半月町	海陸庵古窯址群
		森岡町	神明古窯址群
平成7～20年度	深追間特定土地区画整理事業	桃山町	深追間A古窯跡群
			深追間B古窯跡群
			深追間C古窯跡群
平成8～11年度	桃山土地区画整理事業	桃山町	ガンジ山A古窯跡群
平成10～19年度	羽根山土地区画整理事業	横根町	羽根山古窯跡群
平成10～30年度	共和西特定土地区画整理事業	共和町	砂原古窯跡群
		共西町	瀬戸B古窯跡群、奥谷古窯跡
			瀬戸C古窯群、久分古窯群

本書では、『大府市誌 資料編 考古』(平成3年刊行)以降に実施された埋蔵文化財に係る調査の内、土地区画整理等で本発掘調査に至らず、報告書の刊行とならなかつた民間開発等の試掘調査・立会調査について掲載する。

平成7年度から平成27年度にかけて行われた試掘・確認調査・工事立会などは以下の通りである。

表3 市内試掘・確認調査、工事立会一覧表1

平成7年度試掘・確認調査						
No	遺跡名	調査地	開発計画	調査日	調査結果	県指示
63	立根B古窯群	長草町立根地内	遺跡範囲確認調査	2月28日	遺構有(灰原) 遺物有(山茶碗)	—
64	立根C古窯群	長草町立根地内	遺跡範囲確認調査	3月1日	遺構有(灰原) 遺物有(山茶碗)	—

表4 市内試掘・確認調査、工事立会一覧表2

平成7年度工事立会 なし								
平成8年度試掘・確認調査								
No	遺跡名	調査地	開発計画	調査日	調査結果	県指示		
46	深廻間A古窯群	格山町四丁目地内	土地区画整理事業	3月26日、27日	遺構有(灰原) 遺物有(山茶碗)	—		
67	深廻間B古窯群	格山町四丁目地内	土地区画整理事業	3月26日、27日	遺構有(灰原) 遺物有(山茶碗)	—		
平成8年度工事立会 なし								
平成9年度試掘・確認調査								
No	遺跡名	調査地	開発計画	調査日	調査結果	県指示		
57	羽根山古窯群	横根町羽根山地内	土地区画整理事業	3月26日	遺構有(灰原) 遺物有(山茶碗)	—		
平成9年度工事立会								
47	格山A古窯群	格山町五丁目地内	個人住宅建築	10月17日	遺構有(灰原)・遺物有(山茶碗)			
平成10年度試掘・確認調査								
No	遺跡名	調査地	開発計画	調査日	調査結果	県指示		
90	箕手B古窯	吉田町籠染地内	ゴルフ練習場建設	1月22日	遺構有(灰原) 遺物有(山茶碗)	—		
平成10年工事立会								
No	遺跡名	調査地	開発計画	調査日	備 考			
104	北山古窯	北山町二丁目地内	下水道工事中不時発見	—	遺構・遺物確認されず			
平成11年度試掘・確認調査 なし								
平成11年度工事立会 なし								
平成12年度試掘・確認調査								
No	遺跡名	調査地	開発計画	調査日	調査結果	県指示		
—	横根町羽根山	横根町羽根山地内	遺跡範囲確認調査	1月30日	遺構無・遺物無	—		
—	朝日町五丁目	朝日町五丁目地内	遺跡範囲確認調査	1月31日	遺構無・遺物無	—		
平成12年度工事立会 なし								
平成13年度試掘・確認調査								
No	遺跡名	調査地	開発計画	調査日	調査結果	県指示		
134	高根山C古窯群	北崎町六丁目地内	遺跡範囲確認調査	3月22～28日	遺構有(窯跡等) 遺物有(灰釉碗器)	—		
平成13年度工事立会 なし								

表5 市内試掘・確認調査、工事立会一覧表3

平成14年度試掘・確認調査						
No	遺跡名	調査地	開発計画	調査日	調査結果	県指示
97	砂原古窯	共和町四丁目地内	遺跡範囲確認調査	6月6日	遺構有（灰原） 遺物有（山茶碗）	—
134	高根山C古窯群	北崎町六丁目地内	遺跡範囲確認調査	3月13～18日	遺構有（窯跡等） 遺物有（灰釉陶器）	—
114	石龜土古窯	横根町町石龜土地内	校内道路建設	3月27日	遺構有（窯跡） 遺物有（山茶碗）	発掘調査
平成14年度工事立会 なし						
平成15年度試掘・確認調査						
No	遺跡名	調査地	開発計画	調査日	調査結果	県指示
97	砂原古窯	共和町四丁目地内	遺跡範囲確認調査	6月27日	遺構有（窯跡） 遺物有（山茶碗）	発掘調査
平成15年度工事立会 なし						
平成16年度試掘・確認調査						
No	遺跡名	調査地	開発計画	調査日	調査結果	県指示
102	奥谷古窯	共西町一丁目地内	遺跡範囲確認調査	6月22日 7月6日	遺構有（灰原） 遺物有（山茶碗）	発掘調査
101	瀬戸B古窯群	共和町七丁目地内	遺跡範囲確認調査	3月13～18日	遺構有（窯跡） 遺物有（山茶碗）	発掘調査
100	久分古窯群	共西町四丁目地内	遺跡範囲確認調査	3月27日	遺構有（窯跡） 遺物有（山茶碗）	発掘調査
平成16年度工事立会 なし						
平成17年度試掘・確認調査						
No	遺跡名	調査地	開発計画	調査日	調査結果	県指示
—	半月町四丁目	半月町四丁目地内	遺跡範囲確認調査	10月12日	遺構無・遺物無	—
150	脇ノ畑A古窯	半月町四丁目地内	遺跡範囲確認調査	10月13日、26日	遺構無・遺物無	—
22	律粉古窯	半月町四丁目地内	遺跡範囲確認調査	10月13日、26日	遺構無・遺物無	—
平成17年度工事立会 なし						
平成18年度試掘・確認調査						
No	遺跡名	調査地	開発計画	調査日	調査結果	県指示
22	律粉古窯	半月町四丁目地内	遺跡範囲確認調査	8月2日	遺構無・遺物無	—
92	律粉東古窯	半月町四丁目地内	遺跡範囲確認調査	11月28日	遺構無・遺物無	—

表6 市内試掘・確認調査、工事立会一覧表4

平成 18 年工事立会 なし						
平成 19 年度試掘・確認調査 なし						
平成 19 年度工事立会 なし						
平成 20 年度試掘・確認調査						
No	遺跡名	調査地	開発計画	調査日	調査結果	県指示
148	立会池西古窯群	追分町五丁目地内	護岸工事	2月 18 日	遺構有（窯跡） 遺物有（山茶碗）	—
平成 20 年度工事立会 なし						
平成 21 年度試掘・確認調査						
No	遺跡名	調査地	開発計画	調査日	調査結果	県指示
92	律粉東古窯	半月町四丁目地内	宅地造成	6月 11 日、12 日	遺構有（灰原） 遺物有（山茶碗）	—
179	平子B古窯	横根町平子地内	遺跡範囲確認調査	7月 2 日	遺構無・遺物無	—
174	森岡平子古窯	森岡町二丁目地内	遺跡範囲確認調査	7月 10 日、16 日	遺構無・遺物無	—
73	川池西古窯	若草町一丁目地内	所在確認	8月 5 日、13 日	遺構無・遺物無	—
平成 21 年度工事立会 なし						
平成 22 年度試掘・確認調査						
No	遺跡名	調査地	開発計画	調査日	調査結果	県指示
73	鴨池東古窯	柊山町一丁目地内	宅地造成	4月 28 日 12月 2 日	遺構無・遺物無	—
151	脇ノ畠B古窯	半月町三丁目地内	宅地造成	5月 12 日	遺構無・遺物無	—
平成 22 年度工事立会 なし						
平成 23 年度試掘・確認調査						
No	遺跡名	調査地	開発計画	調査日	調査結果	県指示
10	石丸遺跡	横根町石丸地内	宅地造成	8月 18 日	遺構有（土坑） 遺物有（土師器等）	—
—	北崎町四丁目	北崎町四丁目地内	宅地造成	9月 6 日	遺構無・遺物無	—
平成 23 年度工事立会 なし						
平成 24 年度試掘・確認調査						
No	遺跡名	調査地	開発計画	調査日	調査結果	県指示
22	律粉東古窯	半月町四丁目地内	風力発電機設置	9月 28 日	遺構無・遺物無	—
—	横根町狐山	横根町狐山地内	診療所・薬局建設	2月 26 日	遺構無・遺物無	—

表7 市内試掘・確認調査、工事立会一覧表5

平成24年度試掘・確認調査						
No	遺跡名	調査地	開発計画	調査日	調査結果	県指示
19	ハンヤ古窯	吉田町四丁目地内	個人住宅建築	3月21日、22日	遺構無 遺物有(山茶碗)	工事立会
平成24年工事立会						
No	遺跡名	調査地	開発計画	調査日	備 考	
10	石丸遺跡	横根町石丸地内	集合住宅建築 個人住宅建築	9月11日、13日、 21日、25日、 27日	遺構・遺物確認されず	
平成25年度試掘・確認調査						
No	遺跡名	調査地	開発計画	調査日	調査結果	県指示
187	名高古窯	横根町名高地内	個人住宅建築	6月11日	遺構無・遺物無	—
10	石丸遺跡	横根町石丸地内	個人住宅建築	6月28日 7月2~4日	遺構無 遺物有(山茶碗)	立会工事
72	鴨池北古窯群	長草町二丁目地内	個人住宅建築	7月5日	遺構無 遺物有(山茶碗)	立会工事
73	鴨池東古窯	桃山町一丁目地内	宅地造成	1月23日、24日 2月28日	遺構有(窯跡) 遺物有(山茶碗)	発掘調査
31	吉川城址	吉川町一丁目地内	駐車場・資材置場	3月6日	遺構無・遺物少量 有(山茶碗)	慎重工事
平成25年工事立会						
No	遺跡名	調査地	開発計画	調査日	備 考	
10	石丸古窯	横根町石丸地内	個人住宅建築	7月13日、15日、 16日	遺構(土坑・溝等)遺物(山茶碗等) 出土	
72	鴨池北古窯群	長草町二丁目地内	個人住宅建築	8月19日	遺物(山茶碗等)出土、遺構は確 認されず	
106	長草城址	長草町前屋敷地 内	個人住宅建築	11月8日	遺構・遺物確認されず	
126	古井戸A古窯	横根町古井戸地内	個人住宅建築	10月15日 12月11日	遺構・遺物確認されず	
平成26年度試掘・確認調査						
No	遺跡名	調査地	開発計画	調査日	調査結果	県指示
150	脇ノ畑A古窯	半月町三丁目地内	介護施設建設	6月19日	遺構無 遺物有(山茶碗)	工事立会
31	吉川城址	宮内町四丁目地内	個人住宅建築	6月27日	遺構無・遺物少量 有(山茶碗)	工事立会

表8 市内試掘・確認調査、工事立会一覧表6

平成26年度試掘・確認調査						
No	遺跡名	調査地	開発計画	調査日	調査結果	県指示
109	寺田遺跡	横根町寺田地内	集合住宅建築	7月2日	遺構有	工事立会
10	石丸遺跡	横根町石丸地内	個人住宅建築	12月15日	遺構無・遺物少量有（山茶碗）	慎重工事
171	中村遺跡ほか	横根町（平子地区）	区画整理事業	1月28日、29日	遺構無・遺物少量有（山茶碗）	（次年度継続事業）
平成26年工事立会						
No	遺跡名	調査地	開発計画	調査日	備 考	
103	瀬戸A古窯	共和町五丁目地内	個人住宅建築	7月22日	遺構・遺物確認されず	
9	南島貝塚	朝日町一丁目地内	個人住宅建築	8月4日	遺構・遺物確認されず	
7	高山古墳	中央町四丁目	集合住宅建築	9月26日	遺構・遺物確認されず	
平成27年度試掘・確認調査						
No	遺跡名	調査地	開発計画	調査日	調査結果	県指示
39	横根城址	横根町寺田地内	分譲住宅建築	4月22日	遺構無・遺物無	慎重工事
109	寺田遺跡					
22	律粉古窯群	吉田町律粉地内	駐車場造成	7月15日	遺構無・遺物無	慎重工事
171	中村遺跡ほか	横根町（平子地区）	区画整理事業	2月9日、10日	遺構無・遺物無	（次年度継続事業）
平成27年工事立会 なし						

試掘・確認調査、工事立会の中で、特徴的な8箇所の遺跡について考察する。8遺跡の内、7遺跡が古窯で、大府市域で最も多い遺跡としてその傾向が読み取れる結果となった。もう一つは、石丸遺跡で遺物散布地の区分である。石丸遺跡は、近年の急速な開発で埋蔵文化財包蔵地の照会が多く寄せられている箇所でもある。

第2節 調査方法と経過

各遺跡の試掘調査は、重機による表土掘削を行い、遺構の検出作業・記録の後、遺物を取り上げた。測量は、本發掘の前段階なので平板測量等の簡素な方法に依った。写真撮影記録においては35mmの白黒、カラーポジを基本とし、デジタルカメラの撮影を用いた。

整理作業は、遺物を洗浄し、注記を遺物の裏側で且つ下の目立たない場所に施した。その後、遺物は保管されたが、今回の報告書掲載のために抽出し、接合・実測図作成・電子トレース・遺物写真撮影等を行った。

第III章 調査の成果

第1節 平成7年度

1. 立根B古窯群

所在地：大府市長草町立根地内

調査期間：平成8年2月28日

調査原因：遺跡範囲確認調査

調査概要：トレンチ調査で2基以上の窯体が確認された。

出土遺物：山茶碗・片口山茶碗

協議事項：試掘調査で実施

特記事項：出土遺物のうち、山茶碗を含む17点が図化できた。1～7は器高が低い扁平な形となっている碗、8～16は小碗、17は小皿である。小皿より小碗が多く含まれていることから、立根A古窯群の尾張型山茶碗第5型式より前の第4型式と考えられる。編年観として12世紀中頃から後半に位置すると思われる。同じ立根地区の古窯としては、窯の操業時期に若干のずれが生じている。

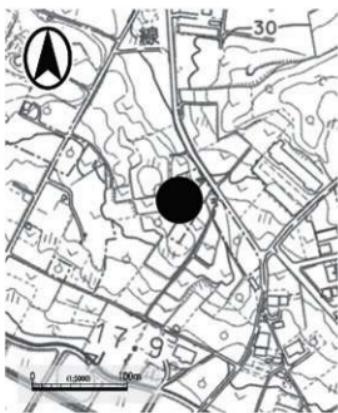


図4 立根B古窯群位置図



写真1 調査地遠景



写真2 トレンチ掘削状況

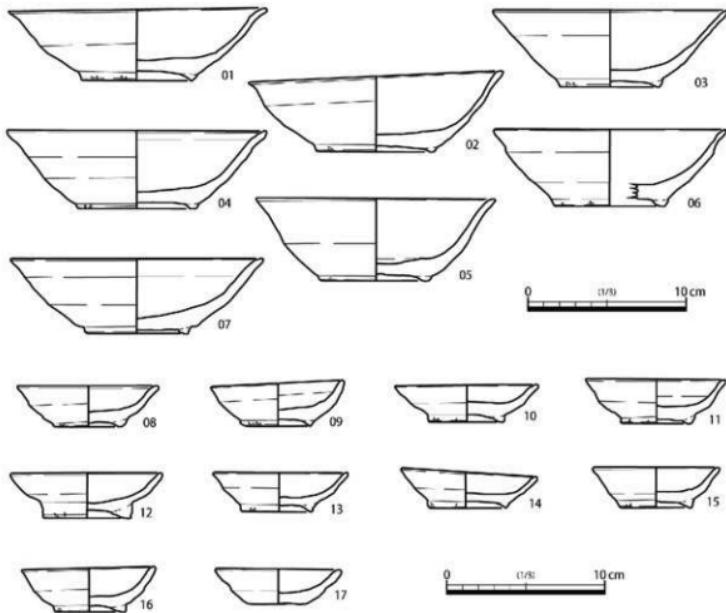


図5 立根B古窯群出土遺物実測図

表18 立根B古窯群遺物観察表

図版番号	器種	出土地区	法量(cm)		残存率(%)		色調	焼成	胎土精製	備考
			口径	高さ	底径	口縁				
01	山茶碗 碗		16.2	4.5	6.9	55	100	SY6/1 灰色	良好	白色砂多く含む
02	山茶碗 碗		16.0	4.8	7.5	50	100	SY6/1 灰色	良好	粗い
03	山茶碗 碗		(14.7)	4.9	(6.3)	30	30	2.5Y7/2 底黄褐色	やや甘い	粗い
04	山茶碗 碗		(16.4)	5.0	7.4	25	100	SY8/1 灰白色	やや甘い	粗い
05	山茶碗 碗		(15.1)	5.3	6.8	20	55	SY8/1 灰白色	やや甘い	粗い
06	山茶碗 碗		(14.7)	4.9	(6.9)	25	30	SY8/1 灰白色	良好	粗い
07	山茶碗 碗		(15.9)	4.8	(6.4)	20	50	7.5Y8/1 灰白色	やや甘い	白色砂含む
08	山茶碗 小碗		8.8	2.6	4.3	70	100	5Y7/2 灰白色	良好	粗い
09	山茶碗 小碗		8.3	2.7	4.2	60	100	SY8/2 灰白色	良好	粗い
10	山茶碗 小碗		9.0	2.4	4.6	15	50	SY8/2 灰白色	良好	粗い
11	山茶碗 小碗		8.8	2.8	4.3	50	70	2.5Y7/4 底黄褐色	良好	緻密
12	山茶碗 小碗		(9.4)	2.9	5.5	30	50	2.5Y7/2 底黄褐色	良好	粗い
13	山茶碗 小碗		8.5	2.5	4.4	50	100	SY8/2 灰白色	良好	粗い
14	山茶碗 小碗		8.6	2.3	4.8	50	100	SY8/1 灰白色	良好	粗い
15	山茶碗 小碗		(8.0)	2.6	4.4	40	100	SY8/1 灰白色	良好	粗い
16	山茶碗 小碗		8.4	2.8	4.3	40	50	SY7/1 灰白色	良好	粗い
17	山茶碗 小皿		(7.9)	2.2	3.7	30	70	SY8/1 灰白色	良好	粗い

※()内の数値は復元値

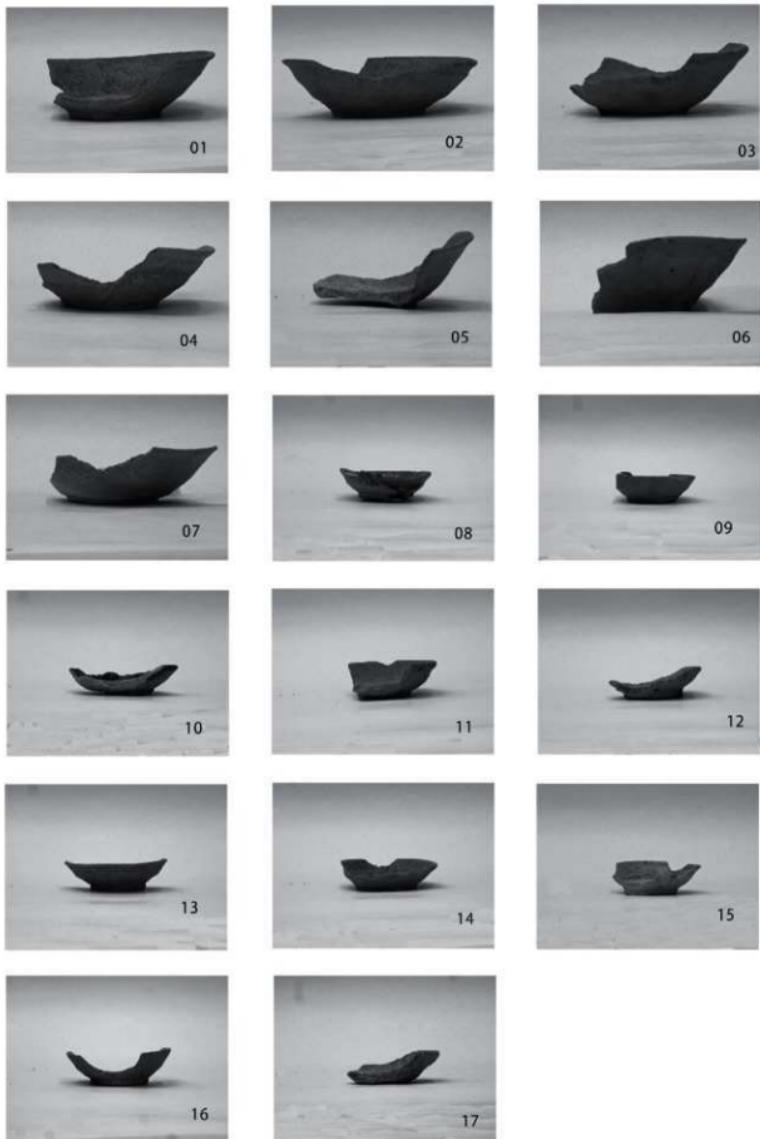


写真3 立根B古窯群遺物写真

2. 立根C古窯群

所在地：大府市長草町立根地区

調査期間：平成8年3月1日

調査原因：遺跡範囲確認調査

調査概要：トレーンチ調査で3基以上の窯体が確認

された。

出土遺物：山茶碗

協議事項：立会調査で実施

特記事項：出土遺物は山茶碗の碗（1・2）と

小皿（3）である。

編年観としては尾張型山茶碗第5型式の
ものが認められることから、12世紀中頃
から13世紀前半に位置すると思われる。

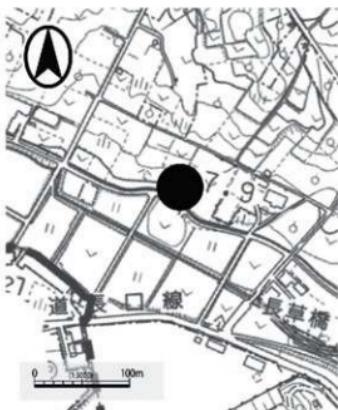


図6 立根C古窯群位置図



写真4 調査地遠景



写真5 トレーンチ掘削状況

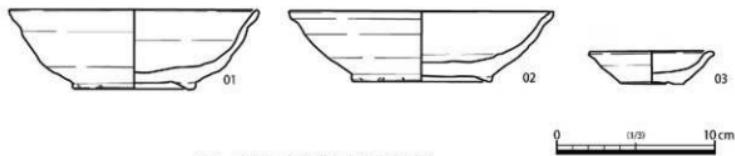


図7 立根C古窯群出土遺物実測図

表10 立根C古窯群遺物観察表

立根C古窯										
回収 番号	器種	出土地区	法量(cm)		残存率(%)		色調	焼成	胎土精製	備考
			口径	器高	底径	口縁				
01	山茶碗 碗	第3トレンチ	(15.7)	5.1	7.5	30	100	5Y8/1 灰白色	良好	白色砂含む
02	山茶碗 碗	第3トレンチ	(16.6)	4.5	8.8	30	50	5Y8/2 灰白色	良好	砂粒含む
03	山茶碗 小皿	第3トレンチ	(7.6)	2.1	3.9	15	100	5Y8/1 灰白色	適密	

※()内の数値は復元値



写真6 立根C古窯群遺物写真

第2節 平成9年度

終山A古窯群

所在地：終山町五丁目地内

調査期間：平成9年10月17日

調査原因：個人住宅建築

調査概要：トレーナー調査で灰原と思われる遺構を確認した。

出土遺物：山茶碗・片口山茶碗

協議事項：立会調査で実施

特記事項：出土遺物のうち、山茶碗を含む27点が図化できた。1～14は碗である。器高が低く扁平な形である。15～20は小碗である。21～25は小皿である。

編年観としては尾張型山茶碗第4型式から第5型式のものが認められることから、12世紀中頃から13世紀前半に位置すると思われる。



図8 終山A古窯群位置群



写真7 調査地遠景



写真8 遺構検出状況

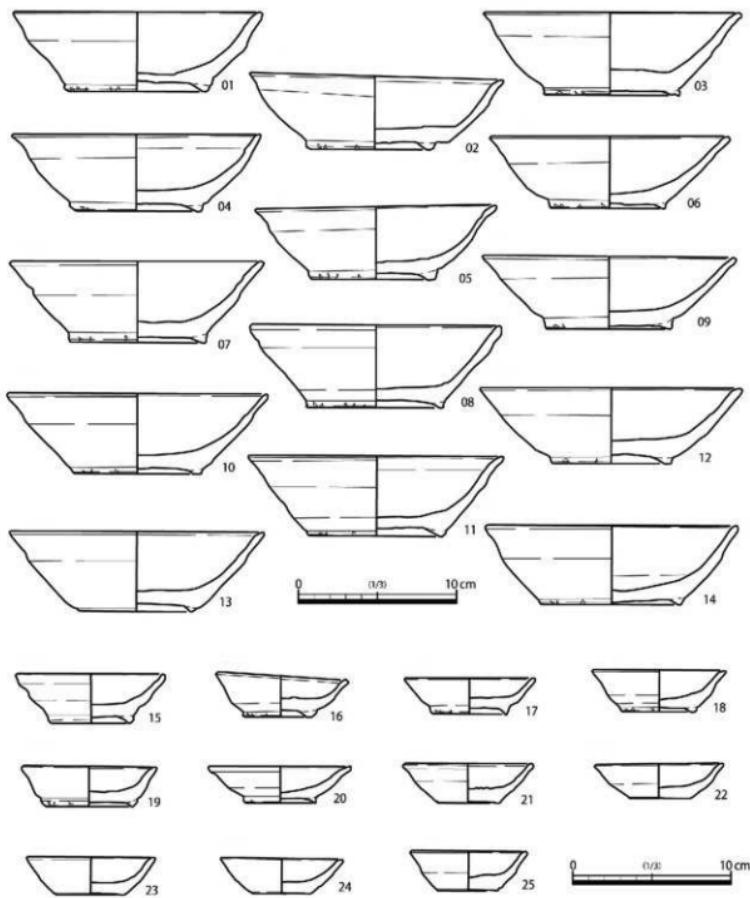


図9 梓山A古窯群出土遺物実測図

表11 梓山A古窯群遺物観察表1

梓山A古窯										
回収 番号	器種	出土地区	法量(cm)		残存率(%)		色調	焼成	胎土精製	備考
			口径	高さ	底径	口様				
01	山茶碗 磁		15.6	5.1	8.7	95	100	SY7/1 灰白色	良好	白砂含む
02	山茶碗 磁		16.0	4.7	7.7	50	100	SY7/3 浅黄色	やや甘い	緻密
03	山茶碗 磁		16.1	5.3	8.5	50	100	SY7/3 浅黄色	やや甘い	粗い、自然結付着

表 12 桧山 A 古窯群遺物観察表 2

回収 番号	器種	出土地区	法量 (cm)			残存率 (%)		色調	焼成	胎土精製	備考
			口径	器高	底径	口径	底部				
04	山茶碗 碗		15.7	5.0	7.9	40	100	SY6/1 灰色	良好	粗い	内面 自然釉付着
05	山茶碗 碗		15.3	4.7	7.8	40	90	SY8/2 灰白色	良好	粗い	
06	山茶碗 碗		15.0	4.6	7.2	60	100	SY8/2 灰白色	良好	粗い	内面 自然釉付着
07	山茶碗 碗		(15.8)	5.2	8.5	15	95	SY7/1 灰白色	良好	粗い	内外面 自然釉付着
08	山茶碗 碗		(15.8)	5.3	8.6	20	100	SY8/2 灰白色	良好	粗い	内面 自然釉付着
09	山茶碗 碗		(16.0)	4.6	7.9	30	100	SY6/1 灰色	良好	粗い	内面自然釉付着
10	山茶碗 碗		(16.4)	5.1	8.0	10	100	SY8/2 灰白色	良好	粗い	内面自然釉付着
11	山茶碗 碗		(16.0)	5.1	8.4	15	100	SY6/1 灰色	やや甘い	緻密	
12	山茶碗 碗		(16.5)	4.9	7.4	10	100	SY6/1 灰色	良好	粗い	
13	山茶碗 碗		(16.0)	5.1	7.2	10	100	SY7/1 灰白色	良好	粗い	
14	山茶碗 碗		(15.8)	5.1	8.9	15	100	SY7/1 灰白色	良好	粗い	内面自然釉付着
15	山茶碗 小碗		(9.4)	3.1	5.1	40	100	SY7/1 灰白色	良好	粗い	
16	山茶碗 小碗		8.2	2.6	4.2	40	100	SY6/1 灰色	良好	粗い	内面自然釉少し付着
17	山茶碗 小碗		(8.2)	2.3	4.7	40	100	SY8/2 灰白色	良好	粗い	
18	山茶碗 小碗		8.3	2.7	4.5	45	55	SY7/1 灰白色	良好	粗い	内面自然釉付着
19	山茶碗 小碗		(8.4)	2.6	(5.5)	45	45	SY5/2 灰オリーブ色	良好	粗い	自然釉少し付着
20	山茶碗 小碗		(8.9)	2.4	(4.5)	40	45	SY8/2 灰白色	良好	粗い	
21	山茶碗 小皿		(7.9)	2.5	3.9	30	100	SY8/2 灰白色	良好	緻密	内面自然釉付着
22	山茶碗 小皿		8.0	2.2	3.8	80	100	SY6/2 灰オリーブ色	やや甘い		
23	山茶碗 小皿		(8.1)	2.4	4.3	15	90	SY8/2 灰白色	良好	粗い	
24	山茶碗 小皿		(7.7)	2.3	3.7	30	100	SY7/1 灰白色	良好	粗い	内面自然釉付着
25	山茶碗 小皿		7.2	2.5	3.9	30	70	SY7/1 灰白色	良好	粗い	内面自然釉付着

※()内の数値は復元值

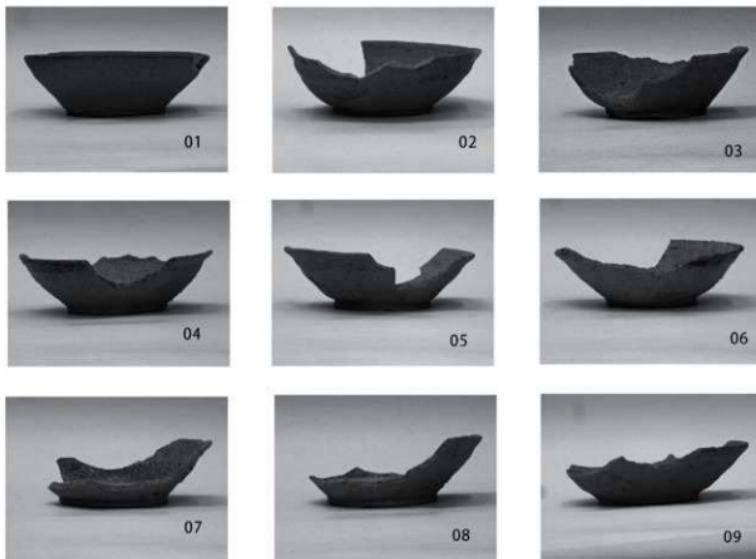


写真 9 桧山 A 古窯群遺物写真 1

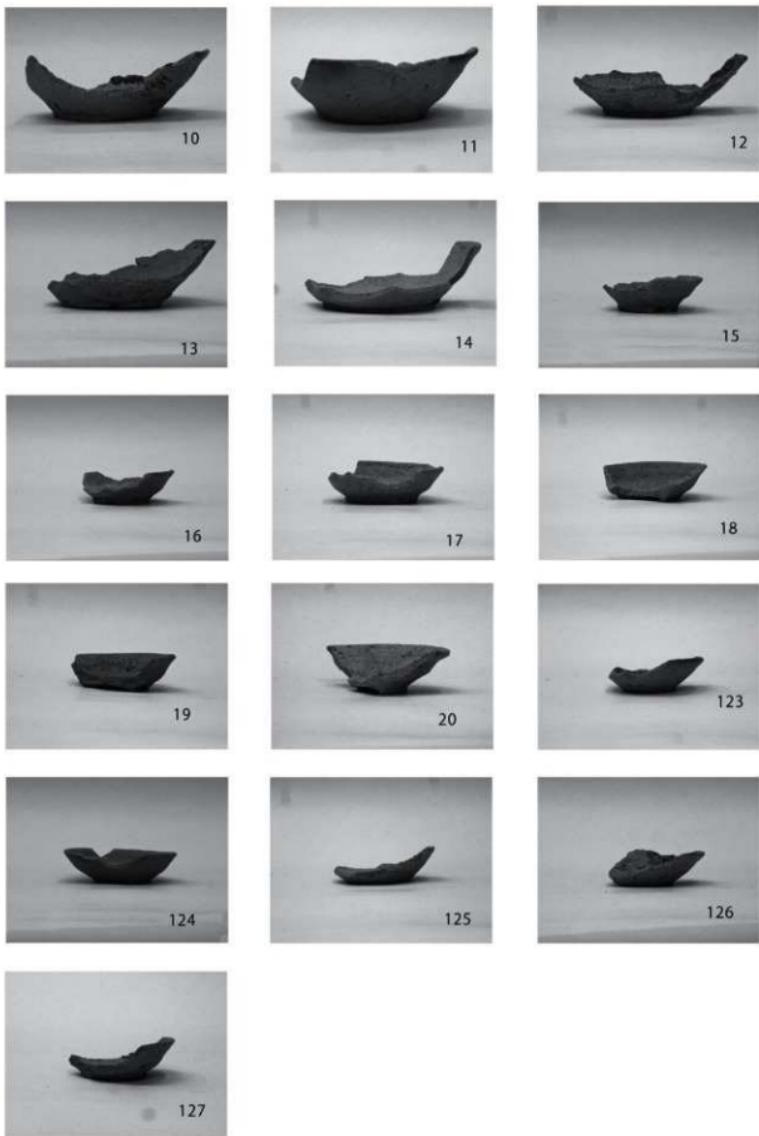


写真 10 栄山 A 古窯群遺物写真 2

第3節 平成10年度

箕手B古窯

所在 地：横根町箕手地内

調査期間：平成11年1月22日

調査原因：ゴルフ練習場建設

調査概要：トレンチ調査で灰原と思われる遺構を確認した。

出土遺物：山茶碗・片口山茶碗

協議事項：試掘調査で実施

特記事項：出土遺物は山茶碗が出土しており、8点が回

化できた。1～4は碗である。器高が低く偏平な形をしている。5～8は小皿である。

編年観として尾張型山茶碗5型式のものが認められることから、12世紀末から13世紀前半に位置すると思われる。

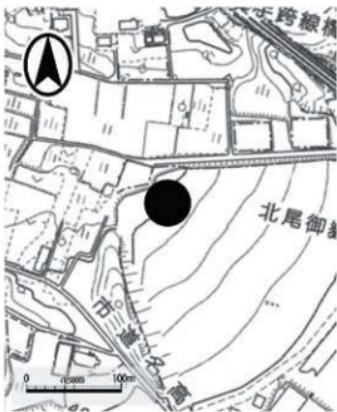


図10 箕手B古窯位置図



写真11 調査地遠景



写真12 トレッセ掘削状況

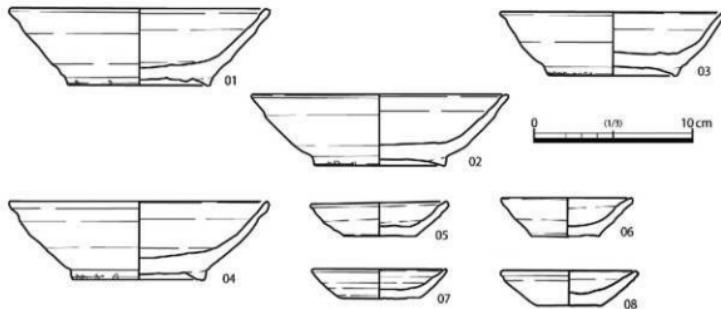


図 11 箕手B古窑出土遺物実測図

表 13 箕手B古窑遺物観察表

箕手B古窑										
回版 番号	器種	出土地区	法量 (cm)		残存率 (%)		色調	焼成	胎土精製	備考
			口径	器高	底径	口縁				
01	山茶碗 碗	Aトレンチ	(16.2)	4.9	8.9	15	100	SY7/2 灰白色	良好	白色砂粒少し含む
02	山茶碗 碗	Aトレンチ	(16.2)	4.6	8.2	10	100	SY6/1 灰色	良好	白色砂粒少し含む
03	山茶碗 碗	Aトレンチ	(14.2)	4.1	8.0	25	70	SY6/1 灰色	良好	
04	山茶碗 碗	Aトレンチ	(16.4)	5.0	(8.2)	25	90	SY7/1 灰白色	良好	
05	山茶碗 小皿	Aトレンチ	8.5	2.2	4.5	95	100	2SY8/1 灰白色	良好	
06	山茶碗 小皿	Aトレンチ	8.4	2.4	4.4	70	100	SY6/2 灰オリーブ色	良好	白色砂粒少し含む
07	山茶碗 小皿	Aトレンチ	(8.6)	1.9	5.0	40	80	SY7/1 灰白色	良好	白色砂粒少し含む
08	山茶碗 小皿	Aトレンチ	(8.4)	2.2	3.9	40	100	2.5Y8/2 灰白色	良好	重ね焼き痕あり

() 内の数値は復元値

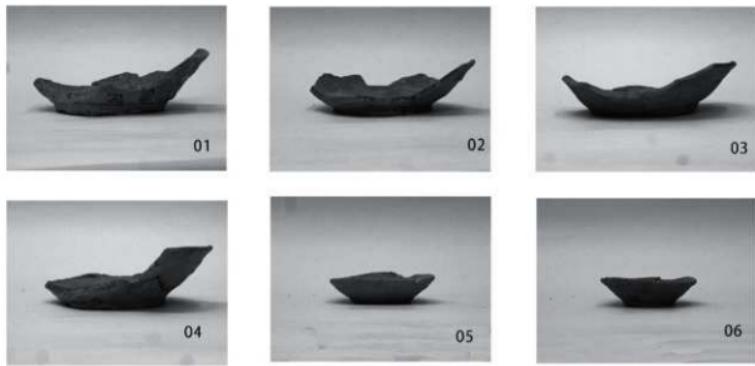


写真 13 箕手B古窑遺物写真

第4節 平成13・14年度

高根山C古窯群

所在地：北崎町六丁目地内

調査期間：平成14年3月22日～3月28日

平成15年3月13日～3月18日

調査原因：遺跡範囲確認

調査概要：トレンチ調査で窯1基と灰原を確認した。

出土遺物：灰釉陶器

協議事項：試掘調査で実施

特記事項：平成14年で、3箇所のトレンチを設定し

掘削した。遺構は窯1基と灰原を確認した。

翌年の平成15年も試掘調査を実施し、8

箇所のトレンチを設定し掘削した。遺物は

コンテナにして5箱分採集され、灰釉陶器が大半である。器種は椀、皿や特殊なもので四耳短頸壺や広口瓶などがある。時期はつけがけの施釉が確認され、概ね10世紀(0～53号窯式期)と考えられる。

1～11は椀である。法量は口径で10cm～16cm台のものが認められる。2は小型の深椀とも考えられるが、椀の範疇に入れた。施釉もつけがけとともに筆塗りと考えられるものが一部あり、4・5・11などがそれに該当するものと思われる。これらは0～53号窯式期でも古段階に属すかもしれない。12～14は深椀である。13・14はつけがけが認められる。15は輪花椀である。口径は18.1cmを測る。16～26は皿である。法量も口径で10cm台から14cm台のものがあり、器種のバラエティが認められる。27は底径11.5cmを測り重ね焼き痕が認められ、壺類とは考えにくいが、椀皿類の大型品と考えられる。28～31は広口瓶である。33は短頸壺である。口径は6.3cmを測る小型製品である。34は四耳壺である。0～53号窯式期に見られない型式で、前段階のK-90号窯式期後半で認められる。口径は9cmを測り、特殊品である。高根山C古窯群の操業開始を検討する上で重要な遺物と考える。35・36は壺底部である。37は甕体部片である。外面にタタキが施されている。灰釉陶器では稀少な器種である。38は壺底部で底径が18.8cmを測る大型品である。39は皿である。立ち上がりの屈曲が強いものである。40は把手と考えられ、壺類の一部と思われる。41は鉢である。復元口径が34.7cmを測り大型品である。42は宝珠つまみの一部である。焼成は甘く、須恵器の部類と考えられる。43は鉢である。44・45は焼台である。

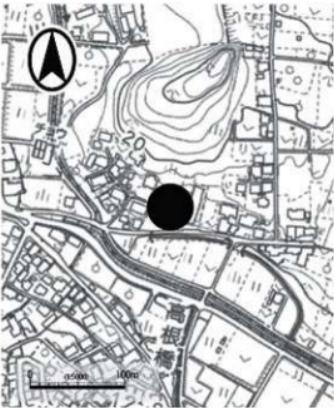


図12 高根山C古窯群位置図



写真 14 調査地遠景



写真 15 トレンチ全景



写真 16 トレンチ断面灰原堆積状況



写真 17 トレンチ遺物出土状況

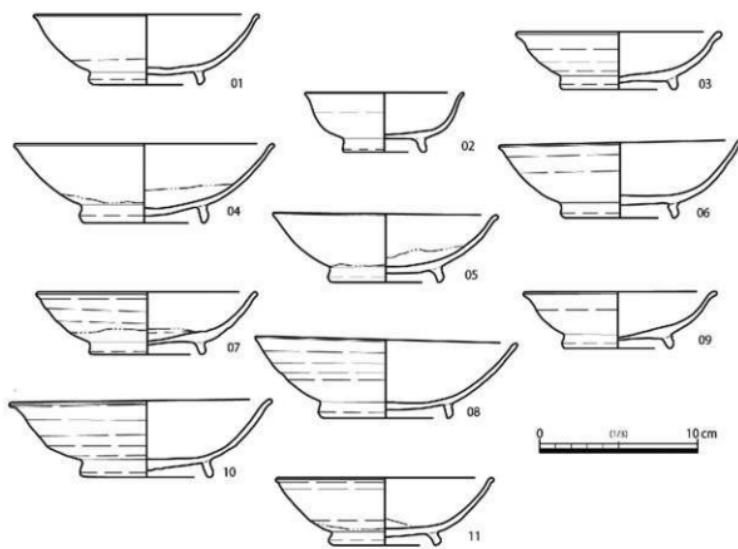


図 13 高根山C古窯群出土遺物実測図 1

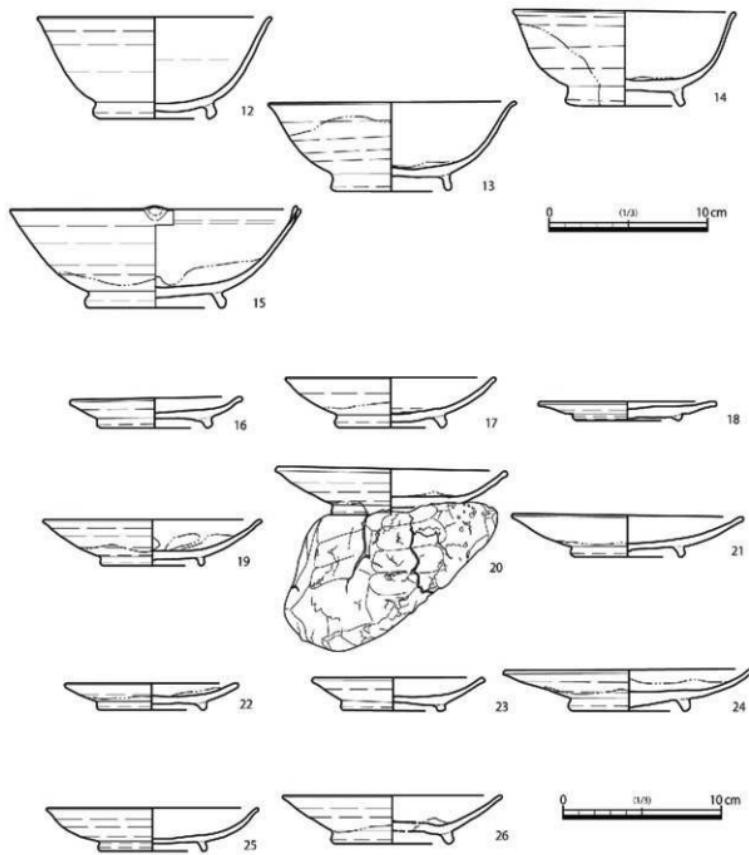


図 14 高根山C古窯群出土遺物実測図 2

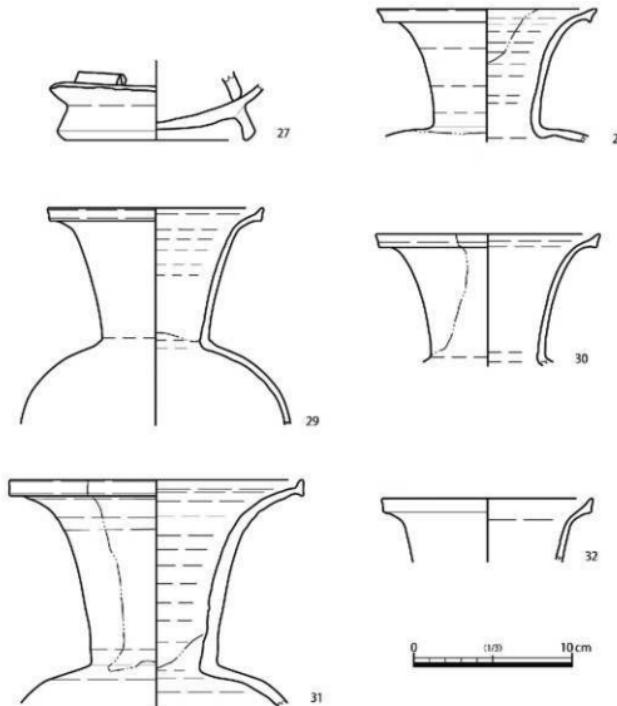


図 15 高根山C古窯群出土遺物実測図 3

表 14 高根山C古窯群遺物観察表 1

高根山C古窯群										
回収番号	器種	出土地区	法量(cm)		残存率(%)		色調	焼成	胎土精製	備考
			口径	器高	底径	口縁				
01	楕	分布調査廻査場	(14.1)	4.5	6.8	20	100	SYB/2 灰各色	良好	緻密
02	楕	分布調査廻査場	(10.0)	3.7	5.1	20	100	SY7/1 灰白色	良好	緻密 内面自然釉
03	楕	分布調査廻査場	(12.8)	3.7	7.1	40	60	SYB/2 灰白色	良好	緻密
04	楕	分布調査廻査場	(16.4)	5.1	7.7	45	100	SY7/2 灰白色	良好	緻密 内外面施釉
05	楕	Aトレンチ灰原	14.2	4.4	6.8	70	100	SY7/1 灰白色	良好	緻密 内外面施釉
06	楕	Aトレンチ灰原	15.3	4.8	6.9	80	85	SY6/1 灰色	良好	緻密
07	楕	Aトレンチ灰原	13.8	4.0	7.0	60	100	SY6/1 灰色	良好	緻密 内外面施釉
08	楕	Aトレンチ灰原	16.5	5.0	8.0	40	100	SYB/2 灰白色	良好	緻密 内外面少自然釉
09	楕	Aトレンチ灰原	12.1	3.6	6.7	50	100	SY7/1 灰白色	良好	緻密
10	楕	Aトレンチ灰原	16.5	4.9	8.0	85	100	SY7/2 灰白色	良好	緻密 無釉

単()内の数値は復元値

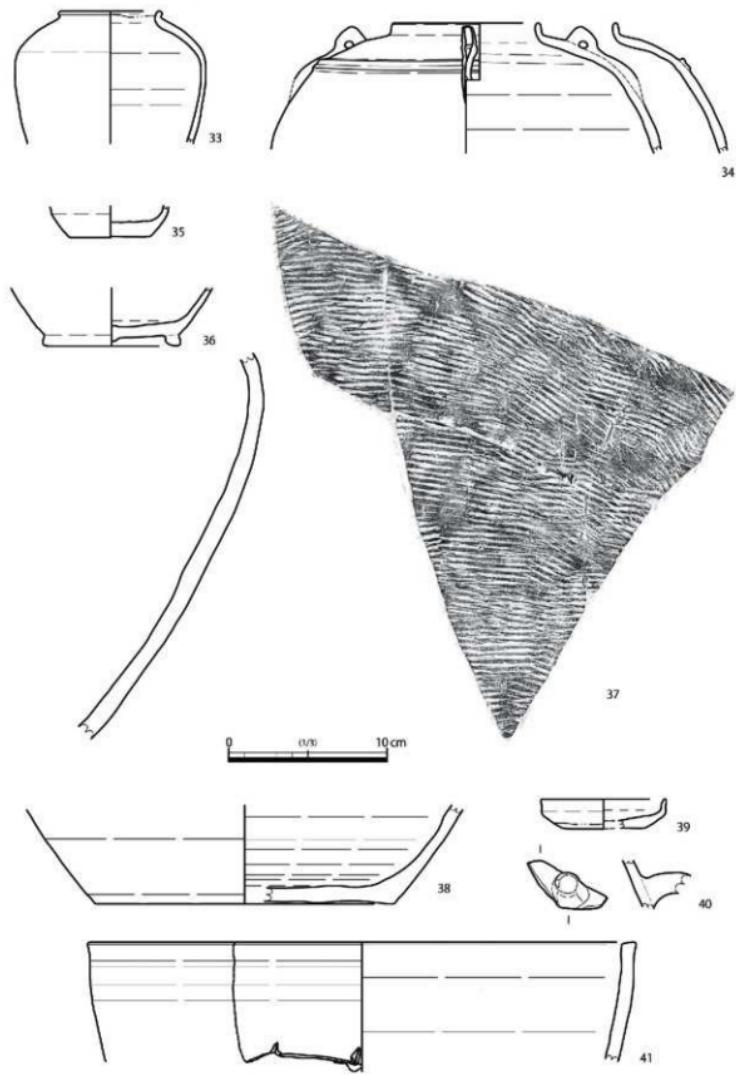


図 16 高根山C古窯群出土遺物実測図 4

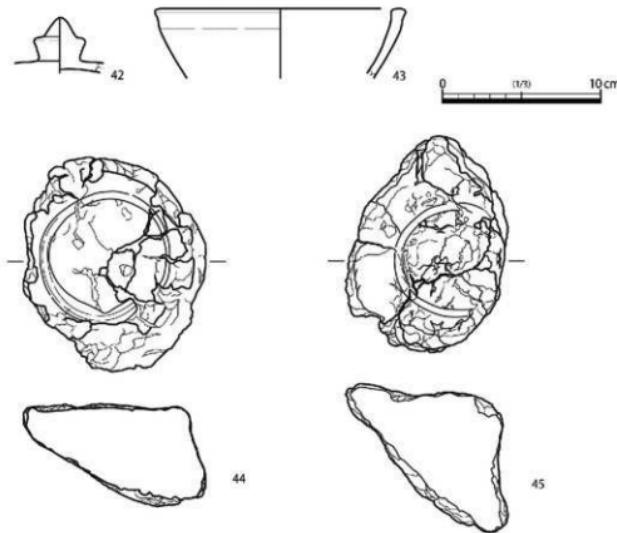


図17 高根山C古窯群出土遺物実測図5

表15 高根山C古窯群遺物観察表2

回収 番号	器種	出土地区	法量(cm)		残存率(%)		色調	焼成	胎土精製	備考	
			口径	器高	底径	口縁					
11	楕	2e灰原	(13.6)	4.3	6.5	35	100	SY6/1灰色	良好	緻密	内外面施釉
12	深楕	Aトレンチ灰原	(14.8)	6.5	(7.0)	30	40	SY7/1灰白色	良好	緻密	
13	深楕	2e灰原	15.6	5.7	7.0	50	100	SY6/1灰色	良好	緻密	内外面施釉
14	深楕	2e灰原	14.0	6.1	6.9	55	100	SY6/1灰色	良好	緻密	内外面施釉
15	輪花楕	分布調査麻葉場	18.1	6.3	8.5	50	65	SY7/1灰色	良好	緻密	内外面施釉
16	■	分布調査麻葉場	10.6	1.9	6.8	60	100	SY7/1灰白色	良好	緻密	無釉
17	■	Aトレンチ灰原	(13.2)	3.2	6.6	30	100	SY8/2灰白色	良好	緻密	内外面施釉
18	■	Aトレンチ灰原	(11.0)	1.2	6.5	35	50	SY7/1灰白色	やや甘い	緻密	釉の黄色悪い
19	■	Aトレンチ灰原	(13.7)	2.9	6.2	30	100	SY7/2灰白色	やや甘い	緻密	釉の黄色悪い
20	■	Aトレンチ灰原	14.5	-	-	55	100	SY7/2灰白色	良好	緻密	内外面施釉
21	■	Aトレンチ灰原	14.5	2.7	7.8	100	100	SY7/2灰白色	良好	緻密	垂み有 内外面施釉
22	■	Aトレンチ灰原	(10.8)	1.7	6.5	20	100	SY7/1灰白色	良好	緻密	内外面施釉
23	■	Aトレンチ灰原	10.8	2.1	6.4	55	100	SY8/1灰白色	良好	緻密	釉の黄色悪い
24	■	Aトレンチ灰原	(15.5)	2.6	7.1	90	100	SY7/2灰白色	良好	緻密	垂み有 内外面施釉
25	■	1g灰原	13.3	2.7	6.6	50	55	SY6/1灰色	良好	緻密	重ね焼き 痕有
26	■	2e灰原	(14.8)	3.1	7.3	40	100	SY8/2灰白色	良好	緻密	内外面施釉
27	高台部大型品	Aトレンチ灰原	-	-	11.5	-	100	SY7/1灰白色	良好	緻密	

※()内の数値は復元値

表 16 高根山C古窯群遺物観察表 3

図版 番号	器種	出土地区	法量(cm)		残存率(%)		色調	焼成	胎土精製	備考	
			口径	器高	底径	口縁					
28	広口壺	分布調査廐塲場	(13.8)	-	-	15	-	SY7/1 灰白色	良好	緻密	内外面施釉
29	広口壺	Aトレーナ灰原	13.6	-	-	35	-	SY7/1 灰白色	良好	緻密	内外面施釉
30	広口壺	2e灰原	(14.1)	-	-	45	-	SY6/1 灰色	良好	緻密	内外面施釉
31	広口壺	2e灰原	18.5	-	-	50	-	SY6/1 灰色	良好	緻密	内外面施釉
32	広口壺	-	(13.3)	-	-	40	-	SY6/1 灰色	良好	緻密	
33	短頸壺	分布調査廐塲場	6.3	-	-	50	-	SY8/1 灰白色	良好	緻密	内外面施釉
34	四耳壺	分布調査廐塲場	9.0	-	-	85	-	SY7/2 灰白色	良好	緻密	内外面施釉
35	壺底部	分布調査廐塲場	-	-	4.8	-	100	SY8/1 灰白色	良好	緻密	
36	壺底部	分布調査廐塲場	-	-	8.3	-	100	SY6/1 灰色	良好	緻密	
37	壺体部	分布調査廐塲場	-	-	-	-	-	SY6/1 灰色	良好	緻密	外腹タタキ
38	壺底部	分布調査廐塲場	-	-	18.8	-	100	SY6/1 灰色	良好	緻密	
39	皿	分布調査廐塲場	(7.9)	2.0	4.9	30	30	SY7/1 灰白色	良好	緻密	
40	把手か	-	-	-	-	-	-	SY7/1 灰白色	良好	緻密	
41	鉢	分布調査廐塲場	-	-	-	-	-	SY7/1 灰白色	良好	緻密	
42	宝珠つまみ	-	-	-	-	-	-	7SY8/2 灰白色	甘い	緻密	
43	鉢	横出時	(34.7)	-	-	-	-	SY6/1 灰色	良好	緻密	
44	飛台	-	-	-	-	-	-	SY3/1 オリーブ黒色	-		
45	焼台	-	-	-	-	-	-	SY3/2 オリーブ黒色	-		

※()内の数値は復元值

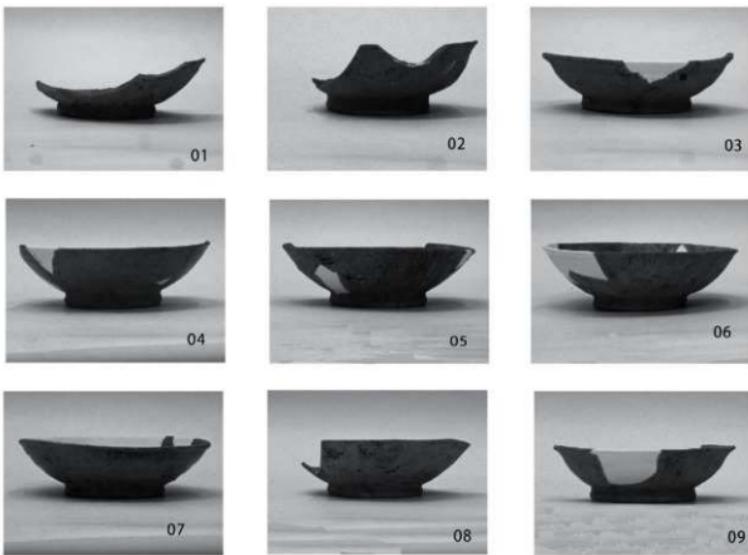


写真 18 高根山C古窯群遺物写真 1

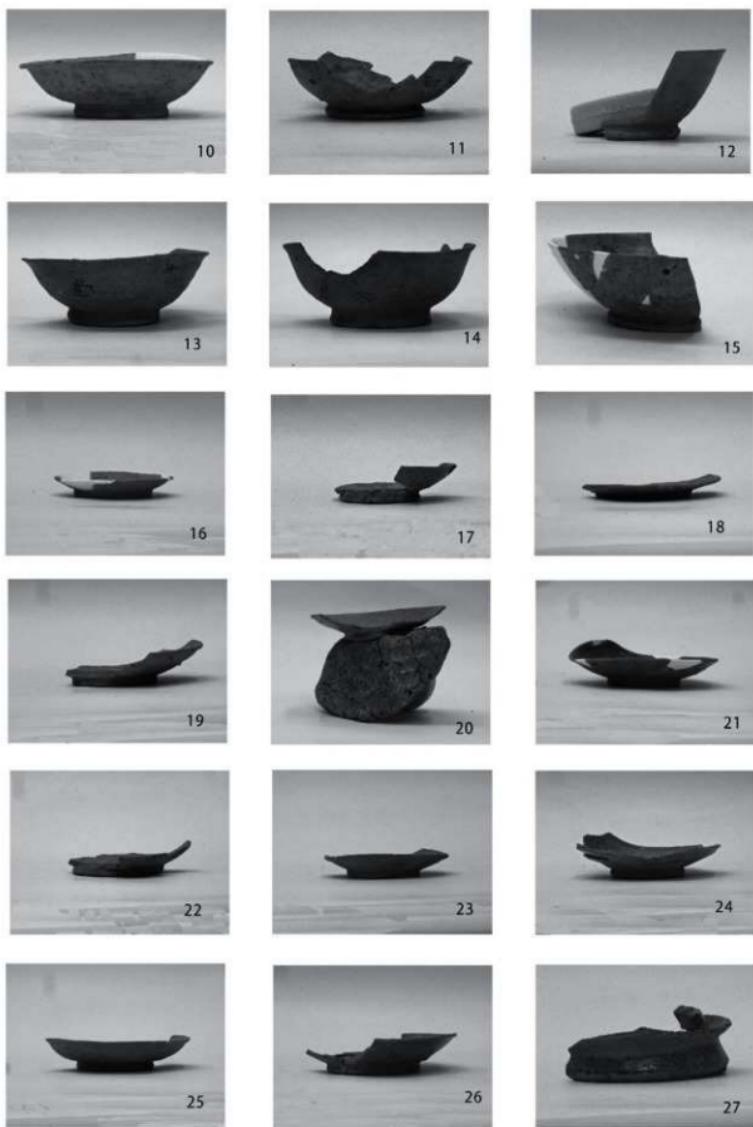


写真 19 高根山C古窯群遺物写真 2

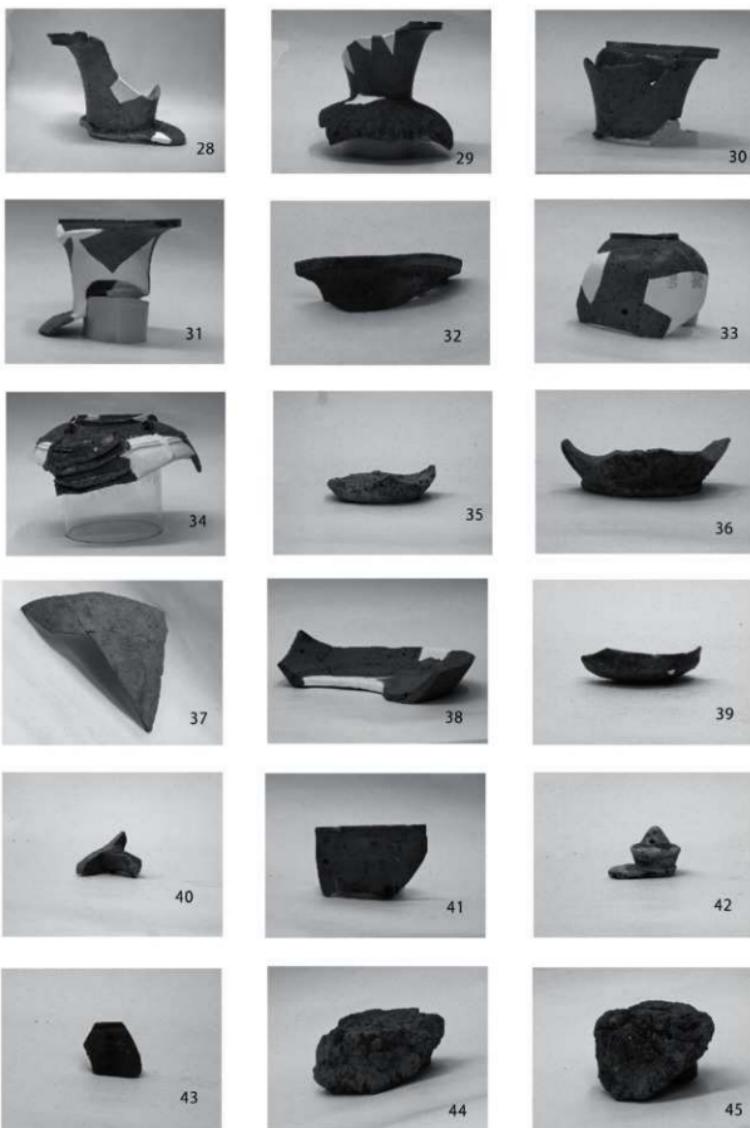


写真 20 高根山C古窯群遺物写真3

付 記： 大府市の灰釉陶器を概観すると現在 159 箇所の古窯跡が埋蔵文化財の包蔵地として周知されているが、灰釉陶器窯として確認できるのは 9ヶ所に留まっている（図 18）。この少数の灰釉陶器窯だが、分布状況をみるとひとつに市内北東の北崎町・瀬川・高根川流域に集中する傾向がある。

隣接する豊明市では、灰釉陶器窯が多く確認されている。猿投西南麓古窯跡群の鳴海有松支群に区分され、三崎、姥子、九左山、大藏池、道山などの丘陵地帯に築かれたグループと仙人塚、山ノ神、南館、大根のグループと境川右岸段丘にある森西、菟外山のグループに分かれる。また境川左岸の刈谷市井ヶ谷地区のグループも加えて、豊明市周辺の尾張三河国境は一大生産拠点と言える。その中で注目したいのは平成 5 年に豊明市教育委員会が発掘調査を行った姥子古窯跡である。時期は 10 世紀中頃の O-53 窯式期と考えられており、遺構は窯 1 基、灰原、土坑が検出されている。出土遺物は灰釉陶器の楕、深楕、輪花楕、皿、輪花皿、段皿、耳皿、広口瓶、短頸壺、鉢、甕がある。高根山 C 古窯群と同時期にあたり器種ごとの比較検討する上で重要な資料である。

しかし高根山 C 古窯群は試掘調査で得られたに過ぎず、現況資料を駆使して比較検討を急いで試みる必要はなく、今回は図化した資料の紹介で留めたい。

現段階では、高根山 C 古窯群は鳴海有松支群および井ヶ谷地区の一大灰釉陶器窯を視野に入れた生産圏縁辺に位置していると思われる。



図 18 大府市内灰釉陶器窯分布図

第5節 平成17年度

脇ノ畠A古窯

所在 地：吉田町脇ノ畠地内

調査期間：平成17年10月26日

調査原因：遺跡範囲確認調査

調査概要：トレンチ調査で灰原と思われる遺構を確認した。

出土遺物：山茶碗

協議事項：試掘調査で実施

特記事項：トレンチを設定して掘削し灰原と思われる遺構を確認した。その内2箇所から焼土、

遺物が多く含まれる堆積層が確認された。

窯体は確認できなかった。出土遺物は山茶

碗が出土しており、4点が図化できた。1～3は碗である。4は小皿である。

編年観として尾張型山茶碗第5型式と考えられ、12世紀末から13世紀前半に位置すると思われる。



図19 脇ノ畠A古窯位置図



写真21 調査地全景



写真22 トレンチ断面堆積状況

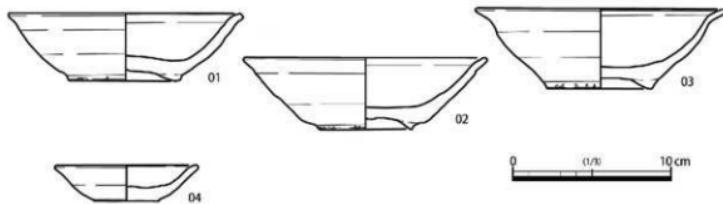


図 20 脇ノ畑A古窯出土遺物実測図

表 17 脇ノ畑A古窯遺物観察表

脇ノ畑A古窯										
回収 番号	器種	出土地区	法量(cm)		残存率(%)		色調	焼成	胎土精製	備考
			口径	器高	底径	口縁				
01	山茶碗 碗	Bトレンチ	(14.8)	4.4	6.9	25	100	7.5Y7/1 灰白色	良好	白色砂微量に含む
02	山茶碗 碗	Bトレンチ	(15.4)	4.6	5.9	20	15	7.5Y7/2 灰白色	良好	砂微量含む
03	山茶碗 碗	Bトレンチ	(15.8)	5.2	6.6	10	100	7.5Y8/2 灰白色	良好	緻密
04	山茶碗 小皿	Aトレンチ	(8.9)	2.3	4.2	40	100	7.5Y7/2 灰白色	良好	緻密

※()内の数値は復元値

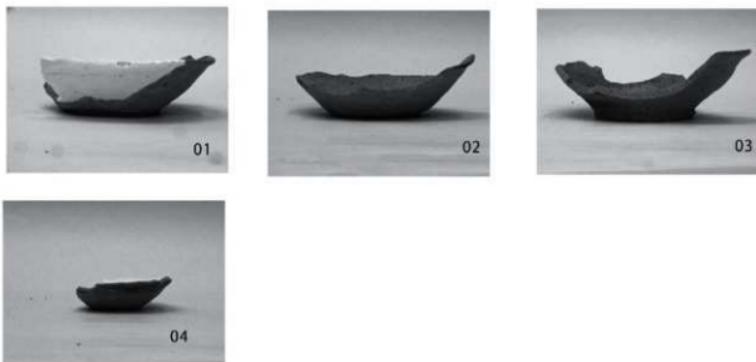


写真 23 脇ノ畑A古窯遺物写真

第6節 平成21年度

律粉東古窯

所在 地：半月町四丁目地内

調査期間：平成21年6月11日、12日

(試掘調査)

平成21年11月4日、5日

(立会調査)

調査原因：商業施設北側開発

調査概要：トレンチ調査で灰原と思われる遺構を確認した。

出土遺物：山茶碗

協議事項：試掘調査・立会調査で実施

特記事項：遺物は山茶碗が出土しており、35点が図化

できた。1～18は碗である。器高が高く、口径が13cm～14cm台の範疇である。19～35は小皿である。31は粘土紐痕が認められる。

編年観として尾張型山茶碗第6型式から第7型式のものが認められることから、13世中頃から後半に位置すると思われる。大府市内では最後の操業に属する古窯で、常滑窯からもこれ以降の型式は認められない。工人達の動向を探る上で重要な遺跡と考えられる。



図21 律粉東古窯位置図



写真24 調査地全景



写真25 トレンチ断面堆積状況

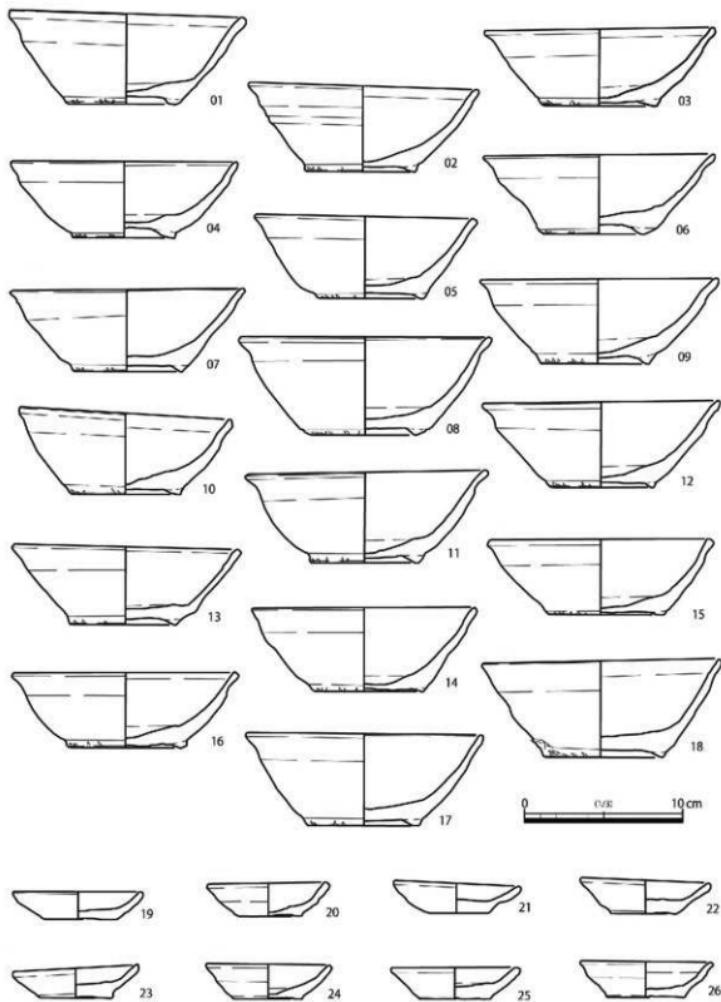


図 22 律粉東古窯出土遺物実測図 1

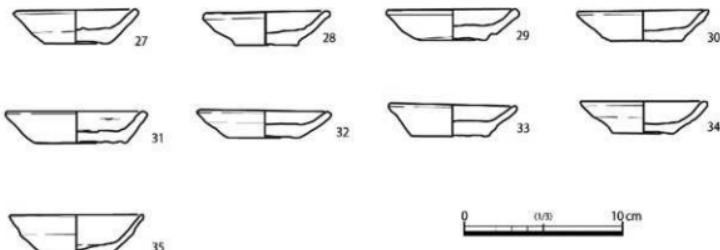


図23 律粉東古窯出土遺物実測図2

表18 律粉東古窯遺物観察表

回版番号	器種	出土地区	法量(cm)		残存率(%)		色調	焼成	胎土精製	備考
			口径	高さ	底径	口縁				
01	山茶碗 碗	Aトレーナー	14.8	5.6	6.8	60	5	SY8/1 灰白色	やや甘い	粗い
02	山茶碗 碗	第1トレーナー	14.4	5.5	6.8	70	50	SY7/1 灰白色	良好	粗い
03	山茶碗 碗		14.5	4.9	7.1	80	100	SY3/2 オリーブ黒色	やや甘い	粗い
04	山茶碗 碗		(14.2)	4.9	6.4	45	80	SY8/1 灰白色	良好	粗い
05	山茶碗 碗		14.8	5.3	6.5	80	100	SY6/2 灰オリーブ色	やや甘い	粗い
06	山茶碗 碗		14.6	5.0	6.4	70	60	SY7/1 灰白色	良好	粗い
07	山茶碗 碗		14.7	5.2	6.8	50	100	SY7/1 灰白色	良好	粗い
08	山茶碗 碗		(15.8)	6.2	6.5	30	60	SY8/2 灰白色	やや甘い	砂粒含む
09	山茶碗 碗		15.1	5.4	6.8	60	100	2SY8/1 灰白色	良好	粗い
10	山茶碗 碗		13.4	5.2	6.9	70	100	SY6/1 灰色	良好	粗い
11	山茶碗 碗		15.0	5.8	6.8	30	60	SY5/1 灰色	やや甘い	粗い
12	山茶碗 碗		15.0	5.5	6.4	40	95	SY6/1 灰色	良好	粗い
13	山茶碗 碗		14.4	5.0	6.8	60	100	SY7/1 灰白色	良好	粗い
14	山茶碗 碗		14.2	5.3	6.8	35	100	SY7/2 灰白色	良好	粗い
15	山茶碗 碗		13.9	4.8	7.3	35	100	SY6/4 オリーブ黄色	やや甘い	粗い
16	山茶碗 碗		14.1	4.8	7.0	50	100	SY5/1 灰色	良好	粗い
17	山茶碗 碗		14.9	5.9	7.0	55	100	SY7/3 淡黄色	やや甘い	粗い
18	山茶碗 碗		15.0	6.2	7.4	50	100	SY6/2 灰オリーブ色	やや甘い	砂粒少し含む
19	山茶碗 小皿 Aトレーナー		8.0	1.8	4.6	70	100	SY8/1 灰白色	良好	粗い
20	山茶碗 小皿 Aトレーナー		7.5	2.1	4.0	60	100	SY6/2 灰オリーブ色	やや甘い	粗い
21	山茶碗 小皿 Aトレーナー		7.9	1.9	4.0	70	100	SY8/1 灰白色	良好	粗い
22	山茶碗 小皿 Aトレーナー		8.1	2.1	4.3	55	100	SY8/1 灰白色	良好	粗い
23	山茶碗 小皿 Aトレーナー		7.9	1.9	4.5	70	100	SY8/1 灰白色	良好	粗い
24	山茶碗 小皿 Aトレーナー		7.8	2.3	4.4	65	100	SY8/1 灰白色	良好	粗い
25	山茶碗 小皿 Aトレーナー		7.9	2.0	4.5	80	100	SY7/1 灰白色	良好	粗い
26	山茶碗 小皿		(8.2)	2.3	4.9	40	90	SY6/1 灰色	良好	粗い
27	山茶碗 小皿		7.5	2.1	4.0	95	100	SY8/1 灰白色	良好	粗い
28	山茶碗 小皿		7.8	2.1	4.0	98	100	SY7/1 灰白色	やや甘い	粗い
29	山茶碗 小皿		8.2	2.0	4.3	55	80	SY8/1 灰白色	良好	粗い
30	山茶碗 小皿		8.2	1.9	4.6	65	100	SY8/1 灰白色	良好	粗い
31	山茶碗 小皿		8.7	2.0	5.8	50	90	SY7/1 灰白色	やや甘い	緻密
32	山茶碗 小皿		(8.1)	1.8	4.5	20	100	SY8/1 灰白色	良好	粗い
33	山茶碗 小皿		8.0	2.0	4.9	50	100	SY8/1 灰白色	良好	粗い
34	山茶碗 小皿		7.9	2.0	3.9	65	100	SY7/1 灰白色	良好	粗い
35	山茶碗 小皿		(8.4)	2.6	4.0	45	100	SY7/1 灰白色	良好	粗い

※()内の数値は復元値



写真 26 律粉東古窯遺物写真 1

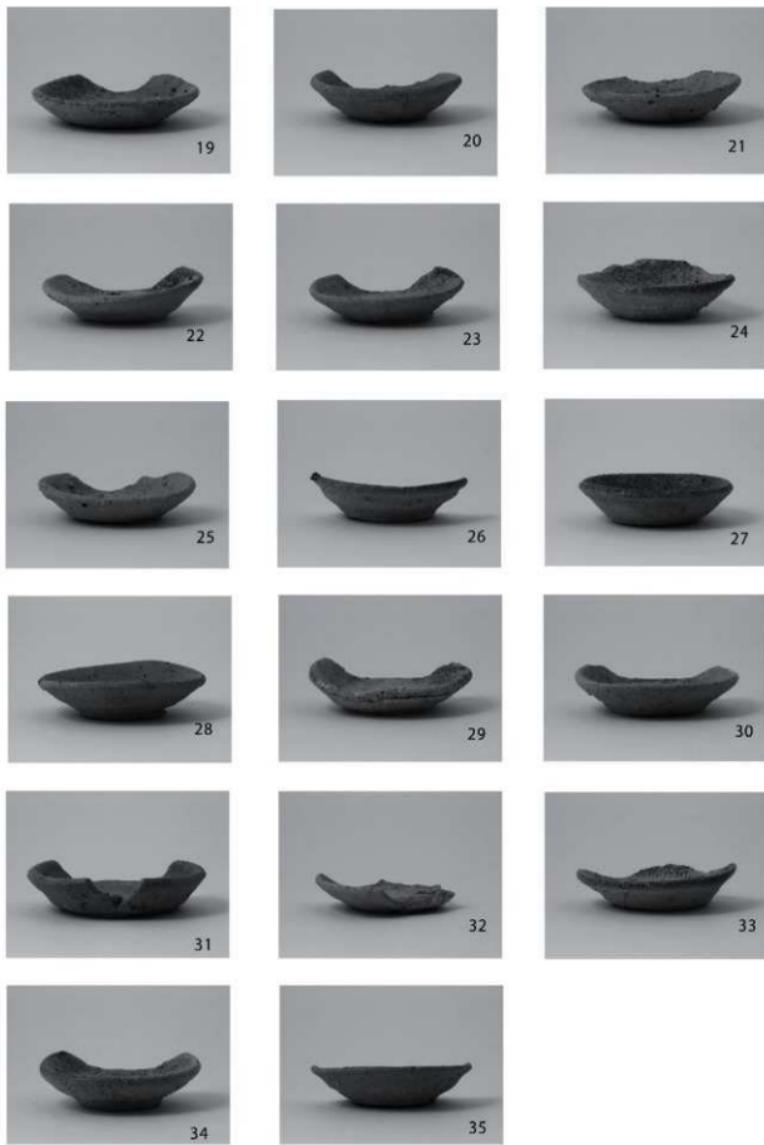


写真 27 律粉東古窯遺物写真 2

第7節 平成23年度

石丸遺跡

所在地：横根町石丸地内

調査期間：平成23年8月18日

調査原因：宅地造成

調査概要：トレンチ調査で土坑を確認した。

出土遺物：土師質内耳鍋

協議事項：試掘調査で実施

特記事項：出土遺物は、内耳鍋が出土している。

内耳鍋は外面に煤が付着している。内面底
部に指圧痕が認められ、外面は、ほぼ全体
にわたって指圧痕が認められる。鍋残存部
には内耳は確認されなかった。

編年観として内耳鍋は調整がナデと指圧痕から、15世紀後半と思われる。

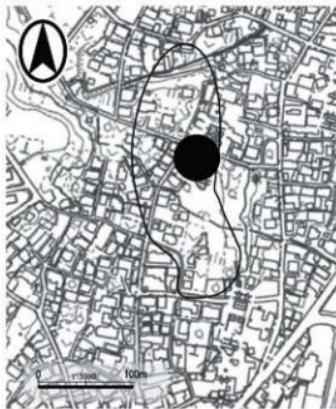


図24 石丸遺跡位置図



写真28 調査地全景



写真29 土器検査状況

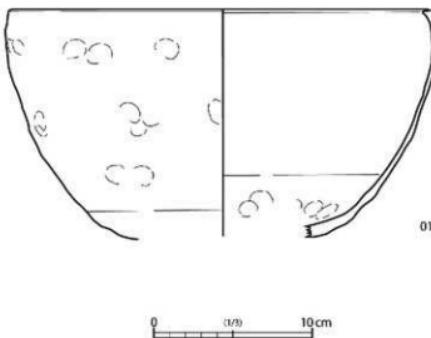


図 25 石丸遺跡出土遺物実測図 1

表 19 石丸遺跡遺物観察表 1

石丸遺跡試掘調査 (H.23)										
図版 番号	器種	出土地区	法量 (cm)		残存率 (%)		色調	焼成	胎土精製	備考
			口径	器高	底径	口縁				
01	土師質内耳鍋	土坑	(27.0)		40		518/2 灰白色	やや甘い		内面スヌ付着

※()内の数値は復元値



写真 30 石丸遺跡遺物写真 1

第8節 平成25年度

石丸遺跡

所在地：横根町石丸地内

調査期間：平成25年7月13日、15日

調査原因：個人住宅建築

調査概要：トレンチ調査で土坑、溝が確認された。

出土遺物：山茶碗、羽釜、片口鉢

協議事項：立会調査で実施

特記事項：出土遺物は、2点が図化できた。1は山茶碗の椀である。2は陶製羽釜である。内面土器接合部に指圧痕が認められる。土器はやや厚みがある。焼成はやや黄色がかかるが、この型式の羽釜は還元焼成で灰色硬質のものが普通であり、還元不良と思われる。

編年観として山茶碗は尾張型山茶碗第4型式と考えられることから、12世紀末から13世紀初頭に位置すると思われる。一方、陶製羽釜は、口縁部がやや内傾し内面調整は指圧痕のみから、山茶碗と同時期に近い12世紀末前後と考えられる。

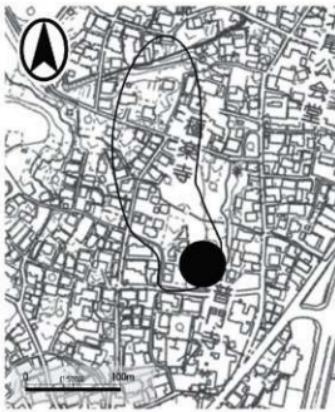


図26 石丸遺跡位置図2



写真31 調査地全景



写真32 土坑羽釜検査状況

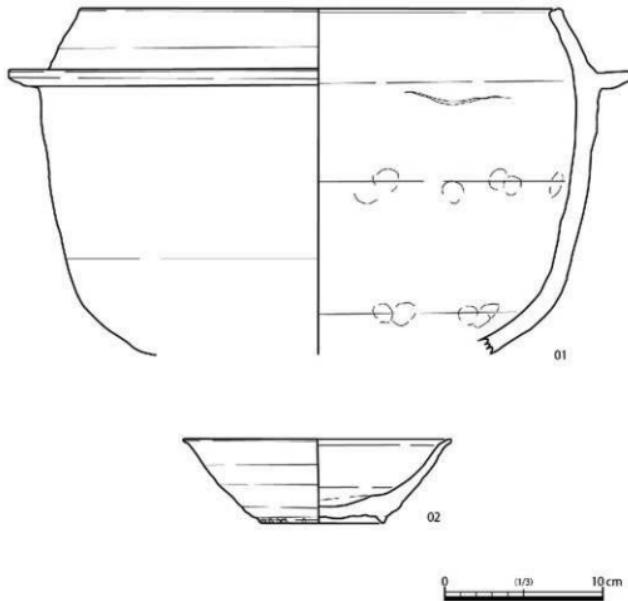


図 27 石丸遺跡出土遺物実測図 2

表 20 石丸遺跡遺物観察表 2

石丸遺跡 (H 25)										
図版 番号	器種	出土地区	法量 (cm)		残存率 (%)		色調	焼成	胎土精製	備考
			口径	器高	底径	口縁				
01	土師質 羽釜	SD01 邪構の SK 土中より	(30.5)			33	7.SY8/2 灰白色	やや甘い	砂粒少しきむ	
02	山茶碗 瓢	T-3 南壁 SK	16.9	5.4	7.7	70	100	7.SY6/1 灰色	良好	緻密

※()内の数値は復元値

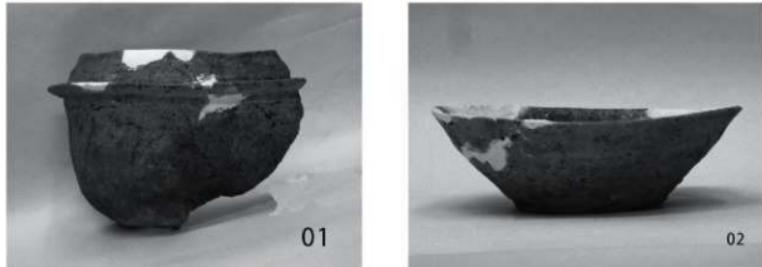


写真 33 石丸遺跡遺物写真 2

【引用参考文献一覧】

- 大府市 1988『大府市誌 資料編 自然』愛知県大府市
- 大府市 1991『大府市誌 資料編 考古』愛知県大府市
- 大府市 1975『野々宮古窯発掘調査報告』大府市教育委員会
- 大府市 1979『ハンヤ古窯発掘調査報告』大府市教育委員会
- 大府市 1984『子安神社遺跡発掘調査報告書』大府市教育委員会
- 大府市 1992『長草立根古窯跡群範囲確認調査報告書』大府市教育委員会
- 大府市 1996『海陸庵古窯址群・神明古窯址群 大府半月地区土地区画整理地内埋蔵文化財発掘調査報告書』大府市文化財調査報告書第2集 大府市教育委員会
- 大府市 2000『ガンジ山A古窯跡群 大府市桃山土地区画整理地内埋蔵文化財発掘調査報告書』大府市文化財調査報告書第4集 大府市教育委員会
- 大府市 2004『深廻間A古窯跡群 大府深廻間特定土地区画整理地内埋蔵文化財発掘調査報告書』大府市文化財調査報告書第5集 大府市教育委員会
- 大府市 2010『羽根山古窯跡群 大府羽根山土地区画整理地内埋蔵文化財発掘調査報告』大府市文化財調査報告書第6集 大府市教育委員会
- 大府市 2006『深廻間B古窯跡群 大府深廻間特定土地区画整理地内埋蔵文化財発掘調査報告II』大府市文化財調査報告書第7集 大府市教育委員会
- 大府市 2007『砂原古窯跡 大府共和西特定土地区画整理地内埋蔵文化財発掘調査報告I』大府市文化財調査報告書第8集 大府市教育委員会
- 大府市 2008『深廻間C古窯跡群 大府深廻間特定土地区画整理地内埋蔵文化財発掘調査報告III』大府市文化財調査報告書第9集 大府市教育委員会
- 大府市 2009『瀬戸B古窯跡群・奥谷古窯跡 大府共和西特定土地区画整理地内埋蔵文化財発掘調査報告I』大府市文化財調査報告書第10集 大府市教育委員会
- 大府市 2014『瀬戸C古窯群・久分古窯群 大府共和西特定土地区画整理地内埋蔵文化財発掘調査報告III』大府市文化財調査報告書第11集 大府市教育委員会
- 大府市 2011『立合池西A古窯跡群・立合池西B古窯跡群 大府一つ屋土地区画整理地内埋蔵文化財発掘調査報告』大府市文化財調査報告書第13集 大府市教育委員会

- 大杉規之ほか 2015『鳴池東古窯 宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』大府市教育委員会 ナカシャクリエイティブ株式会社
- 愛知県 2015『愛知県史 別編 古代 猿投系』窯業1 愛知県
- 愛知県 2007『愛知県史 別編 中世・近世 濱戸系』窯業2 愛知県
- 愛知県 2012『愛知県史 別編 中世・近世 常滑系』窯業3 愛知県
- 中野良法ほか 1999『森岡第1号窯跡群』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第85集 愛知県埋蔵文化財センター
- 池本正明ほか 2013『別唄古窯群』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第187集 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
- 尾野善裕 1994『猿投窯鳴海地区古窯跡一覧』『NN330号窯発掘調査報告書名古屋市教育委員会
- 伊藤秋男ほか 1994『姥子古窯跡発掘調査報告書』豊明市教育委員会
- 藤澤良祐 1994『山茶碗研究の現状と課題』『三重県埋蔵文化財センター研究紀要』3 三重県埋蔵文化財センター
- 山下峰司 1995「4. 灰釉陶器・山茶碗」『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会
- 鈴木正貴 2005「東海における中世土器・陶磁器の編年」『全国シンポジウム中世窯業の諸一 生産技術の展開と編年』『全国シンポジウム中世窯業の諸一 生産技術の展開と編年』実行委員会
- 永井邦仁 2015「尾張三河国境地帯の古代窯業関連集落」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要 第16号』愛知県埋蔵文化財センター
- 中野晴久 2015「第5章 総論 知多半島北部の山茶碗窯」『鳴池東古窯』大府市教育委員会 ナカシャクリエイティブ株式会社

報 告 書 抄 錄

ふりがな	しないいせきちょうさほうこくしょ
書名	市内遺跡調査報告書
副書名	平成7～27年度の試掘調査・立会調査報告
巻次	
シリーズ名	大府市文化財調査報告書
シリーズ番号	第12集
編著者名	田中 城久
編集機関	大府市教育委員会(歴史民俗資料館)
所在地	〒474-8701 愛知県大府市中央町五丁目70番地
発行年月日	2017年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東經	調査期間	調査面積m ²	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村 遺跡番号					
立根B古窯群	大府市長草町立根地内	23223 440063			H8.2.28		遺跡範囲確認
立根C古窯群	大府市長草町立根地内	23223 440064			H8.3.1		遺跡範囲確認
終山A古窯群	大府市終山町五丁目地内	23223 440047			H9.10.17		個人住宅建築
箕手B古窯	大府市横根町五丁目地内	23223 440090			H11.1.22		ゴルフ練習場建設
高根山C古窯群	大府市北崎町六丁目地内	23223 440134			H14.3.22～28 H15.3.13～18		遺跡範囲確認
駒ノ畑A古窯	大府市吉田町駒ノ畠地内	23223 440153			H17.10.26		遺跡範囲確認
律粉東古窯	大府市半月町西丁目地内	23223 440092			H21.6.11～12 H21.11.4～5		商業施設北側開発
石丸遺跡	大府市横根町石丸地内	23223 440010			H23.8.18 H25.7.13～15		宅地造成 個人住宅建築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
立根B古窯群	古窯跡	平安時代後期	灰原	山茶碗	
立根C古窯群	古窯跡	平安時代後期～ 鎌倉時代初頭	灰原	山茶碗	
終山A古窯群	古窯跡	平安時代末～ 鎌倉時代前期	灰原	山茶碗	
箕手B古窯	古窯跡	平安時代末～ 鎌倉時代初頭	灰原	山茶碗	
高根山C古窯群	古窯跡	平安時代中期	窯 灰原	灰釉陶器	市内では希少な灰釉陶器窯
駒ノ畠A古窯	古窯跡	平安時代末～ 鎌倉時代初頭	灰原	山茶碗	
律粉東古窯	古窯跡	鎌倉時代後期	灰原	山茶碗	常滑窯では最終形式の操業
石丸遺跡	遺物散布地	中世	土坑・溝	山茶碗・土師器・陶器	

要約	平成7年から平成27年にかけて、大府市内における試掘調査と立会調査の成果を集成した。
----	--

大府市文化財調査報告書 第12集

市内遺跡調査報告書

平成29年3月31日発行

発行 愛知県大府市教育委員会

住所 〒474-8701

愛知県大府市中央町五丁目70番地

印刷 株式会社 愛知印刷工業

